

逓信院設置ニ伴フ関係規定類ノ改正ニツイテ
 及び官吏任用叙級令制定関係

逓信大臣官房文書課

国立公文書館	
分類	総務省 平成19年度
排架番号	3A 5 114



20 5 19

20 5 19

20 5 19

仰
石
別
紙
業
用
取
計
に
て
度
裁

改
正
1
件
並
信
院
設
置
に
伴
う
閣
令
及
告
示
中

總
裁
外
5.18.

昭
和
20
5.18

長
官
重
年
會

文
書
部
長

文
書
部
長

文
書
部
長

文
書
部
長

通文 672 518

省令及告示
改正方針

運輸通信省設立之際ニ於ケル改正ニ準ジ
之ヲ行フ

運輸通信大臣ノ权限ノ内通信ニ關スルモノニ
付テハ原則トシテ之ヲ通信院總裁ニ移ス
法規止大臣ノ权限ト存スルモノハ此ノ
儘内閣総務大臣ニ譲知ス
運輸通信省全般ニ係ルル内容ノ一
ニシテ今回ノ種々稱改正ニ伴ヒ通信部
内ノモノニ別ニ制定スルモノハ密令ヲ
以テ該省令ノ一部改正ヲ再スカ又ハ單獨
密令ノ制定ヲ行フ

官報 第 〇〇〇 號
 年 月 日
 第 〇 號

令 第 〇 號

逓信院設置ニ伴フ逓信省令、運輸逓信省令中改正ノ件左ノ通定ム

昭和二十年 月 日 内閣總理大臣 男爵 鈴木 貫太郎

第一條 逓信院設置ニ伴フ逓信省令、運輸逓信省令中改正ノ件

- 逓信省令及運輸逓信省令中「逓信院組織」ヲ「逓信院總裁」ニ、「逓信院」ヲ「逓信院」ニ、「逓信部内ノ官署」ヲ「逓信官署」ニ、「逓信部内」ヲ「逓信部内」ニ、「逓信部外」ヲ「逓信部外」ニ、「逓信院業務局」ヲ「逓信院業務局」ニ、「逓信院貯金保險局長」ヲ「逓信院貯金保險局長」ニ、「逓信院貯金保險局」ヲ「逓信院貯金保險局」ニ改ム

第二條 左表上欄ニ掲グル逓信省令及運輸逓信省令中欄ノ字句ヲ下欄ノ通改ム

逓 信 省

裏面白紙

裏面白紙

昭和十六年逓信省令第三十四號	逓信大臣	逓信院總長
昭和十六年逓信省令第一百七號	逓信大臣	逓信院總長
昭和十六年逓信省令第九十一號	逓信大臣	逓信院總長
郵便貯金規則	逓信大臣	逓信院總長
簡易生命保險及郵便年金積立金 融通規則	逓信大臣	内閣總理大臣
無線通播士資格檢定規則	逓信大臣	逓信院總長
「エツクス」磁氣計檢定規則	逓信大臣	逓信院總長

逓信省

第三條 大正二年九月通信省令第九十號通信總長大臣ノ主管ニ屬スル
 公益法人ノ設立及監督ニ關スル規則中左ノ通改正ス
 題名中「通信總長大臣ノ主管ニ屬スル公益法人」ヲ「内閣總理大臣
 ノ主管ニ屬スル通信關係公益法人」ニ改ム
 第一條中「通信總長大臣ノ許可ヲ得テ法人」ヲ「内閣總理大臣ノ許
 可ヲ得テ總務ニ關スル法人（以下法人ト稱ス）」ニ「通信總長大臣」ヲ「
 内閣總理大臣」ニ改ム
 第二條中「通信總長大臣」ヲ「内閣總理大臣」ニ改ム
 第三條第一項中「通信總長大臣」ヲ「内閣總理大臣」ニ改メ第三項
 中「通信總長大臣」ヨリ補助金ノ支給ヲ受クル法人ニシテ」ヲ削リ
 「場合ニ於テハ」ヲ「法人ニ在リテハ」ニ改ム

第四條中「逓信總長大臣」ヲ「内閣總務大臣」ニ改メ逓信局長ノ下
ノ圖書ヲ附ス

逓
信
省

日本標準規格B5判

裏
面
白
紙

裏面白紙

第四條 逓信共済組合規則中左ノ逓改正ス

第二條中「逓信總制大臣」ヲ「逓信院總裁」ニ改ム

第三條中「逓信院總裁」ヲ「逓信院次長」ニ改ム

第三條ノ二中第四號及第五號ヲ削ル

第三條ノ三第二項（表）中第十三級以下ヲ左ノ逓改ム

第十三級	百三十五圓以上 百四十五圓未満	千六百八十圓	百四十圓	四圓七十錢
第十四級	百四十五圓以上 百五十五圓未満	千八百圓	百五十圓	五圓
第十五級	百五十五圓以上 百六十五圓未満	千九百二十圓	百六十圓	五圓三十錢
第十六級	百六十五圓以上 百七十五圓未満	二千四十圓	百七十圓	五圓七十錢
第十七級	百七十五圓以上 百八十五圓未満	二千百六十圓	百八十圓	六圓

逓信省

裏面白紙

第十八級	百八十五圓以上 百九十五圓未満	二千二百八十圓	百九十圓	六圓三十錢
第十九級	百九十五圓以上	二千四百圓	二百圓	六圓七十錢

第五條中「通信院、電氣試驗所、遠信講習所、無線電信講習所、通信局、通信官署、」ヲ「通信官署」ニ改メ、「運輸通信省海運總局、船舶試驗所、高等商船學校、商船學校、航海訓練所、海員養成所、海運局、船員職業紹介所、高等海員審判所、地方海員審判所、運輸通信省航空局及航空機來員養成所」ヲ削リ同條第一號中「千八百二十圓」ヲ「二千四百二十圓」ニ同條第三號本文中「通信、海運又ハ航空ニ關スル」ヲ「通信官署」ニ改メ、但書ヲ削ル

第四十一條中「運輸通信省內」ヲ「通信官署」ニ改ム

通信省

裏面白紙

第百四條ノ二中「逓信院總裁」ヲ「逓信院次長」ニ改ム
 第百七條、第百九條、第百十一條及第百十二條中「逓信院信書内」
 ヲ「逓信院」ニ、「逓信院信大臣」ヲ「逓信院總裁」ニ改ム
 第百十七條中「逓信院信大臣」ヲ「逓信院總裁」ニ、「逓信院總裁」
 ヲ「逓信院次長」ニ改ム
 第百十八條中「逓信院信大臣」ヲ「逓信院總裁」ニ改ム

逓信省

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和十九年逓信省令第六十一號及同十九年奉同第百十二號ノ規定
ニ依リ従前調製シタル用紙ハ當分ノ内其ノ儘使用スルコトヲ得

裏面白紙

逓信省

日本標準規格B5判

大日本帝國政府

◎ 閣令 第十一號

第 一 三

國家總動員法第四條ノ規定ニ基キ内閣所屬遞信官署ニ徵用セラレタル者ニ對スル給與等ニ關スル件左ノ通定ム

昭和二十年 月 日

内閣總理大臣 鈴木 貫太郎

國家總動員法第四條ノ規定ニ基キ内閣所屬遞信官署ニ徵用セラレタル者ニ對スル給與等ニ關スル件

第一條 國家總動員法第四條ノ規定ニ基キ内閣所屬遞信官署ニ徵用

セラレタル者(以下被徵用者ト稱ス)ノ服務、賞罰、服制、待遇、

給與及旅費ニ關シテハ別ニ規定セララルモノヲ除クノ外本令ニ定

ムル所ニ依ル

第二條 被徵用者ノ服務、賞罰、服制、待遇及給與ニ關シテハ被徵

用者ガ現ニ業務ニ従事スル内閣所屬遞信官署(以下就業處ト稱ス)

ニ於ケル雇員又ハ傭人ニ付定ムル規定ヲ準用ス但シ被徵用者ノ手

當又ハ給料ノ初給基本額ハ被徵用者ガ徵用前官公署ニ勤務シタル

者ニ在リテハ當該官公署ニ於ケル従前ノ支給額ヲ其ノ他ノ者ニ在

裏面白紙

大日本帝國政府

リテハ別表第一號表ヲ基準トシ就業廳ニ於テ之ヲ決定ス

第三條 被徵用者徵用令書ニ記載シアル出張場所タル内閣所屬通信官者一以下出張廳ト稱ス一ニ出張スルトキ及出張廳ヨリ就業廳ニ赴クトキ並ニ徵用ヲ解除セラレ徵用セラレタル當時ニ於ケル居住地ニ歸郷スル場合ニ於テハ就業廳ニ於ケル雇員又ハ傭人ノ赴任ノ例ニ依リ内閣旅費ニ關スル規定ニ定ムル旅費ヲ支給ス但シ居住地、出張廳所在地及就業廳所在地間ハ各地間ヲ通ジテ之ヲ一赴任旅行ト看做ス

第四條 徵用ヲ解除セラレタル者徵用ノ期間中ニ其ノ居住地ヲ徵用セラレタル當時ニ於ケル居住地以外ノ地ニ定メタル場合ニ於テハ前條ニ定ムル歸郷ノ場合ニ準ジ新居住地ニ至ル旅費ヲ支給ス但シ其ノ支給スベキ旅費ノ額ハ徵用セラレタル當時ニ於ケル居住地ニ至ル旅費ノ額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第五條 第三條ノ規定ニ依リ支給スベキ家族移轉料ハ徵用ノ期間一年以上ニ互ル場合ニ於テ被徵用者其ノ家族ヲ就業廳所在地（就業廳ニ通勤シ得ル附近ノ地域ヲ含ム）ニ移轉セシメタルトキニ限り之ヲ支給ス

裏面白紙

大日本帝國政府

- 第六條 第三條ノ規定ニ依リ支給スベキ着後手當及移轉料ハ前條ノ規定ニ依リ家族移轉料ヲ支給スベキ事實ノ生ジタルトキニ限リ之ヲ支給ス
- 第七條 被徵用者徵用ヲ解除セラレ歸郷スル場合ニ於テ第三條及第四條ノ規定ニ依リ支給スベキ旅費ハ前二條ノ規定ニ依リ家族移轉料、着後手當及移轉料ノ支給ヲ受ケタル者ニハ之ヲ支給セズ
- 第八條 被徵用者其ノ家族ノ危篤又ハ死亡ノ爲就業廳ノ長ノ許可ヲ受ケ一時歸郷スルトキハ別表第二號表定額ニ依リ就業廳所在地家族ノ居住地間ノ往返ニ要スル旅費ヲ支給ス
- 被徵用者前項ノ規定ニ該當セザル事由ニ依リ一時歸郷中其ノ家族危篤ニ陥リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ就業廳ノ長必要アリト認ムルトキハ別表第二號表定額ニ依リ返路ニ要スル旅費ヲ支給スルコトヲ得
- 第九條 被徵用者ノ危篤又ハ死亡ノ爲就業廳ノ長ノ通知ニ依リ其ノ家族出張スルトキハ一人ヲ限リ別表第二號表定額ニ依リ家族ノ居住地被徵用者ノ就業廳所在地間ノ往返ニ要スル旅費及到着ノ日より起算シ三日以内ノ滞在ニ要スル旅費ヲ支給ス

裏面白紙

大日本帝國政府

被徵用者ノ危篤ニ因リ其ノ家族出頭ノ途中被徵用者死亡シタルト
キハ之ヲ被徵用者ノ死亡ニ因ル出頭ト看做ス

被徵用者ノ危篤ニ因リ其ノ家族出頭シタル後被徵用者死亡シタル
トキハ死亡ノ日ヨリ起算シ更ニ三日以内ノ滞在ニ要スル旅費ヲ支
給ス但シ到着ノ日ヨリ起算シ通ジテ五日ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十條 前條ノ規定ニ該當セザル事由ニ依リ被徵用者ノ家族出頭中
被徵用者危篤ニ陥リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ就業廳ノ長必要ア
リト認ムルトキハ別表第二號表定額ニ依リ返路ニ要スル旅費及危
篤又ハ死亡ノ日ヨリ起算シ各三日以内ノ滞在ニ要スル旅費ヲ支給
スルコトヲ得但シ危篤及死亡ヲ通ジテ五日ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十一條 前三條ノ規定ニ依リ支給スベキ旅費ハ被徵用者ノ家族ガ
就業廳所在地ニ居住スル場合ニ於テハ之ヲ支給セズ但シ出頭シタ
ル家族就業廳所在地ニ宿泊スルヲ要スルトキハ宿泊料ニ限リ之ヲ支
給スルコトヲ得

第十二條 前三條ノ規定ニ依リ支給スル旅費ノ額ハ家族ガ十二歳未
滿ナルトキハ其ノ半額トス

裏面白紙

大日本帝國政府

第十三條 被徵用者就業處所在地以外ノ地ニ在ル場合ニ於ケル第八條乃至第十一條ノ適用ニ付テハ當該地ヲ就業處所在地ト看做ス但シ私事ノ爲就業處所在地以外ノ地ニ在ル場合ニ於テ支給スベキ旅費ノ額ハ家族ノ居住地就業處所在地間ニ付計算シタル額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 前六條ニ於テ家族トハ配偶者（届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ含ム）、直系卑屬、直系尊屬及戸主ヲ謂フ

被徵用者危篤又ハ死亡ノ際ニ於テ前項ノ家族ナキトキ又ハ事故ニ因リ前項ノ家族出頭シ難キ場合ニ於テハ被徵用者ノ親族中就業處ノ長ノ認ムル者一人限り其ノ家族ト看做スコトヲ得

第十五條 第三條乃至第六條ノ規定ニ依ル旅費ハ被徵用者ノ居住地ヨリ出頭處ニ出頭スルトキ及出頭處ヨリ就業處ニ赴クトキハ出頭處ニ於テ其ノ他ノ場合ニ於テハ就業處ニ於テ之ヲ支給ス

第十六條 旅費ノ前掲ヲ爲スニ非ザレバ被徵用ニ應ズルコト能ハザル者ニ對シテハ被徵用者ノ居住地ノ市町村（東京都中區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都）又ハ之ニ準ズベキモノ（以下市町村ト稱ス）ニ

裏面白紙

大日本帝國政府

於テ被徵用者ノ居住地ヨリ出頭廳所在地迄ノ順路ニ依リ別表第三
號表定額ニ依ル旅費ヲ一時繰替支給スベシ

第十七條 市町村前條ノ旅費ノ繰替支給ヲ爲シタルトキハ被徵用者
出頭旅費受領證一別紙様式一ヲ徵シ徵用令書裏面ニ~~支~~給市町村名、
支給年月日及一旅費金額何圓何拾錢也支給濟一ト記載印シ被徵用
者ニ返戻スルト共ニ~~憑~~憑書ヲ具シ其ノ拂戻ヲ被徵用者ノ出頭廳ニ
請求スベシ

第十八條 出頭廳ハ前條ノ旅費繰替支給額ヲ調査シ被徵用者ニ支給
スベキ旅費ノ中ヨリ當該市町村ニ對シ其ノ拂戻ヲ爲シ殘額ハ之ヲ
本人ニ支給スベシ

繰替支給額吾旅費額ヲ超過スルトキハ超過額ハ之ヲ本人ヨリ徴收
シ當該市町村ニ對シ拂戻ヲ爲スベシ

第十九條 旅費ノ支給ニ關シテハ本令ニ定ムルモノノ外就業廳ニ於
ケル内國旅費ニ關スル規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

裏面白紙

裏面白紙

別表第一表

地方	當該年	
	投票者	投票者
大分	八五一七〇	七五一六〇
大分	七〇一五五	六〇一四五
大分	四五一三五	四二一三〇
大分	二	一、三
大分	二一	一、五

備考 本表ニ依リ、投票者ノ初級選民ノ其ノ者ノ投票、投票
 及、投票スル票數場所ニ依リ、且投票ノ結果其ノ投票
 票スベキ收入ヲ計算シ、投票票ニ於テ定ムルモノトス

選 信 省

原本不明瞭

裏面白紙

加表第一號表

區	區	區	區
區	區	區	區
區	區	區	區
區	區	區	區
區	區	區	區

備考一、日信、宿泊料ハ朝飯、吉萬反律太ニ在リテハ本表定額ノ
 二、朝飯トス
 三、臥室賃及仕賃三等又ハ京極旅客^送賃及廻行料等トス

遞信省

原本不明瞭

裏面白紙

附表第三號表

區分	區		實		額	
	日當一日二付	額	稻田村一夜二付	額	真早村一夜二付	額
內	二、〇〇〇	〇	五、〇〇〇	〇	一、〇〇〇	〇
朝鮮、台灣、樺太內	二、〇〇〇	〇	六、〇〇〇	〇	一、〇〇〇	〇

備考 歐運員及船員ハ三等又ハ最低ノ級者並員及船行
料並トス

遞信省

原本不明瞭

裏面白紙

別表様式

被服用者出頭証書交付記録簿

一紙

内 務 省

支給年月日	被服支給額	住 所	出頭額	交付者氏名印
何年何月何日		何所(通稱)何(町) 何町(村)何番地		何 某 印

右ノ通稱替支給記録簿及被服記録簿

何所(縣)何番(市)何町(村) 氏 名 印

遞 信 省

裏面白紙

案ノ四

閣令第 7 號

逓信院監督工場規程左ノ通定ム

昭和二十年 月 日

内閣總理大臣 名

逓信院監督工場規程

第一條 内閣總理大臣通信ノ用ニ供スル物資ノ確保上必要アリト認
ムルトキハ此等ヲ生産スル民間工場事業場ノ事業主ノ同意ヲ得テ
當該工場事業場ヲ逓信院監督工場事業場（以下逓信院監督工場ト
稱ス）トシテ指定スルコトヲ得

第二條 逓信院監督工場ノ指定ハ内閣總理大臣當該工場事業場ノ事
業主ニ對シ其ノ工場事業場ノ名稱及所在地並ニ事業名ヲ記載シタ
ル指定書ヲ交付シテ之ヲ爲ス

逓信省

第三條 逓信院總裁、逓信局長及逓信管理部長（以下主務廳長ト稱ス）ハ其ノ所掌スル所ニ從ヒ左ノ職員ヲ逓信院監督工場ニ配置シ之ガ監督、指導及轉旋ニ關スル事務ヲ掌ラシム

監督官補

監督官ハ高等官ヲ以テ、監督官補ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 主務廳長前條ノ監督官又ハ監督官補ヲ配置シタルトキハ當該逓信院監督工場ノ事業主ニ對シ其ノ監督官又ハ監督官補ノ官職氏名ヲ通知スベシ

第五條 逓信院監督工場ノ事業主ハ當該事業ノ實施ニ關シ監督官又ハ監督官補ノ指導ニ從フモノトス

第六條 監督官ハ主務廳長ノ命ヲ承ケ其ノ配置セラレタル逓信院監督工場ニ付左ノ事務ヲ掌ル
一、作業及設備ノ指導、監督ニ關スル事項

裏面白紙

- 二 技術及經理ノ調査、監督ニ關スル事項
 - 三 原價ノ調査研究ニ關スル事項
 - 四 従事員ノ勤勞管理ノ指導監督ニ關スル事項
 - 五 機密保持ノ監督ニ關スル事項
 - 六 防衛ノ指導、監督ニ關スル事項
 - 七 資材、資金、勞務、動力、輸送力等ノ取得確保ノ指導監督ニ關スル事項
 - 八 遞信院ノ發任又ハ調辨ニ係ル物資ノ納入ニ關スル事項
 - 九 其ノ他生産ノ隘路補正上必要ナル事項
- 監督官ハ前項第八號ニ掲グル物資ノ原價調査ニ關シテハ當該契約擔任官ノ區處ヲ承クルモノトス
- 第七條 監督官補ハ監督官ヲ輔佐シ前條第一項各號ニ掲グル事務ニ従事ス

附 則
 本令ハ昭和二十年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

遞 信 省

運輸通信省監督工場規程ニ依リ指定セラレタルモノノ内通信院選定
又ハ通信局長ヲ主務廳長トスルモノハ之ヲ本令ニ依リ指定セラレタ
ルモノト看做ス

運輸通信省

日本標準規格B-11

裏面白紙

命令第三十三號

茶 / 五

内閣總理大臣ノ指定ニ係ル軍用資源物資ノ保護ニ關スル件左ノ通定ム

昭和二十年 月 日 内閣總理大臣名

内閣總理大臣ノ指定ニ係ル軍用資源物資ノ

保護ニ關スル件(茶)

第一條 本令ハ軍用資源物資保護法(以下法ト稱ス)第二條ノ規定ニ

依ル内閣總理大臣ノ指定ニ係ル軍用資源物資ノ保護ニ關スル事項ヲ

決定スルモノトス

第二條 左ノ各圖ノ一ニス言スルモノハ法第二條本文ノ規定ニ依リ之

ヲ軍用資源物資トシテ指定ス

遞信省

昭和十三年一月以降ニ於ケル郵政府、陸軍司令部、軍管區司令部、海軍司令部、支那司令部、留守府、警備府所在地相互間ノ連絡スル電報、電話、無線電報又ハ無線電話各別ノ回線線敷及同上區間ニ於ケル電氣通信ノ施設力致ニ此等ヲ表示スル記載圖表ニ昭和十三年一月以降ニ於ケル内地ノ朝鮮、臺灣、關東州、滿洲國又ハ中華民國トヲ連絡スル電報、電話、無線電報又ハ無線電話各別ノ回線線敷及同上區間ニ於ケル電氣通信ノ施設力致ニ此等ヲ表示スル記載圖表

第三條 内閣總理大臣法第二條第十五項ニ該當スル軍用電報機密ニ屬スル設備ヲ施設スル爲必要アルトキハ當該設備ノ場所ニ附屬第一ニ定ムル標識ヲ施設シ又ハ當該設備ノ管理者若ハ之ニ準スベキ者（以

裏面白紙

下管署トナス）ヲシテ選取兵ノ額ノ増減ヲ為サシム

第四條 附則第一ニ定ムル標旗ヲ改置シタル政府ノ場所ニ付テハ法第

六條ノ規定ニ依リ之ニ付立入又ハ閲覧、撮影、模寫、複製若ハ採取

又ハ其ノ模寫若ハ複製ヲ爲スコトヲ得ス

但シ内閣總理大臣ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニアラス

附則但書ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケントスル者ハ別記第一條式ノ許可

願書（三題）ヲ該政府ノ官署若シテ内閣總理大臣ニ提出スベシ

第五條 通信官若以外ノ官職ニ於テ專用資原秘密保護法施行令（以下

令ト稱ス）第十二條ノ規定ニ依リ本条ヲ受ケントスルトキハ前條ノ

許可願書ニ準ズル承認申請書（三題）ヲ内閣總理大臣ニ提出スベシ

第六條 法第十二條第十二條及第十三條ニ該當スル軍用資原秘密ヲ外漏

遞信省

裏面白紙

外國ノ爲ニ行動スル者若ハ外國人ニ開示シ、交付シ若ハ公ニ受ヘ
法第二條第十五號ニ該言スル事用實錄簿ヲ他人ニ開示シ、交付シ
若ハ公ニスルコトノ許可ヲ受ケントスルモノハ別記第二號式ノ許可
證書(三通)ヲ内閣總理大臣ニ提出スベシ

第七條 通信官若以外ノ官職ニ於テ第十八條ノ規定ニ依リ承認ヲ受
ケントスルトキハ別記ノ許可證書ニ準ズル承認申請書(三通)ヲ内
閣總理大臣ニ提出スベシ

第八條 内閣總理大臣第四條若ハ第六條ノ規定ニ依ル許可ヲ爲シ又ハ
第五條若ハ第七條ノ規定ニ依ル承認ヲ爲シ又ハ條件ヲ附シ許可若ハ
承認ヲ爲シタルトキハ別記第二ニ定ムル許可證又ハ之ニ準ズル承
認ヲ交付ス

遞信省

日本標準規格1599

裏面白紙

前項ノ許可證又ハ承認書ヲ紛失シタル者ハ其ノ事由ヲ具シ當該設置
 ノ管理署ヲ經テ通知ナクは同該設置大臣ニ届出デ必要ニ届ジ再下付ク
 申請スベシ此ノ場合ニ於テ未ダ再下付ク受ケザルトキト雖モ當該設
 置ノ管理署ノ承認ヲ受ケタルトテハ當該行為ヲ繼續スルコトヲ得
 第九條 許可證又ハ承認書ハ第四條第一項ニ決定スル行為ヲ爲ス者必
 メ之ヲ携帯シ何時ニテモ當該設置ノ者守備、憲兵又ハ警察官吏ノ要
 求ニ應ジ閲覧ニ供スベシ
 第十條 許可證ヲ所持スベキ者同條ノ決定ニ依ル閲覧ヲ拒ミタルトキ
 ハ十圓以下ノ科料ニ處ス
 第十一條 第三條ニ決定スル標紙ヲ損毀シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之
 ヲ無効ナラシメタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

逓信省

裏面白紙

第十二條 本令ニ依リ内閣總理大臣ニ提出スベキ書類ハ所轄廳長
ヲ提出スベシ

附 則

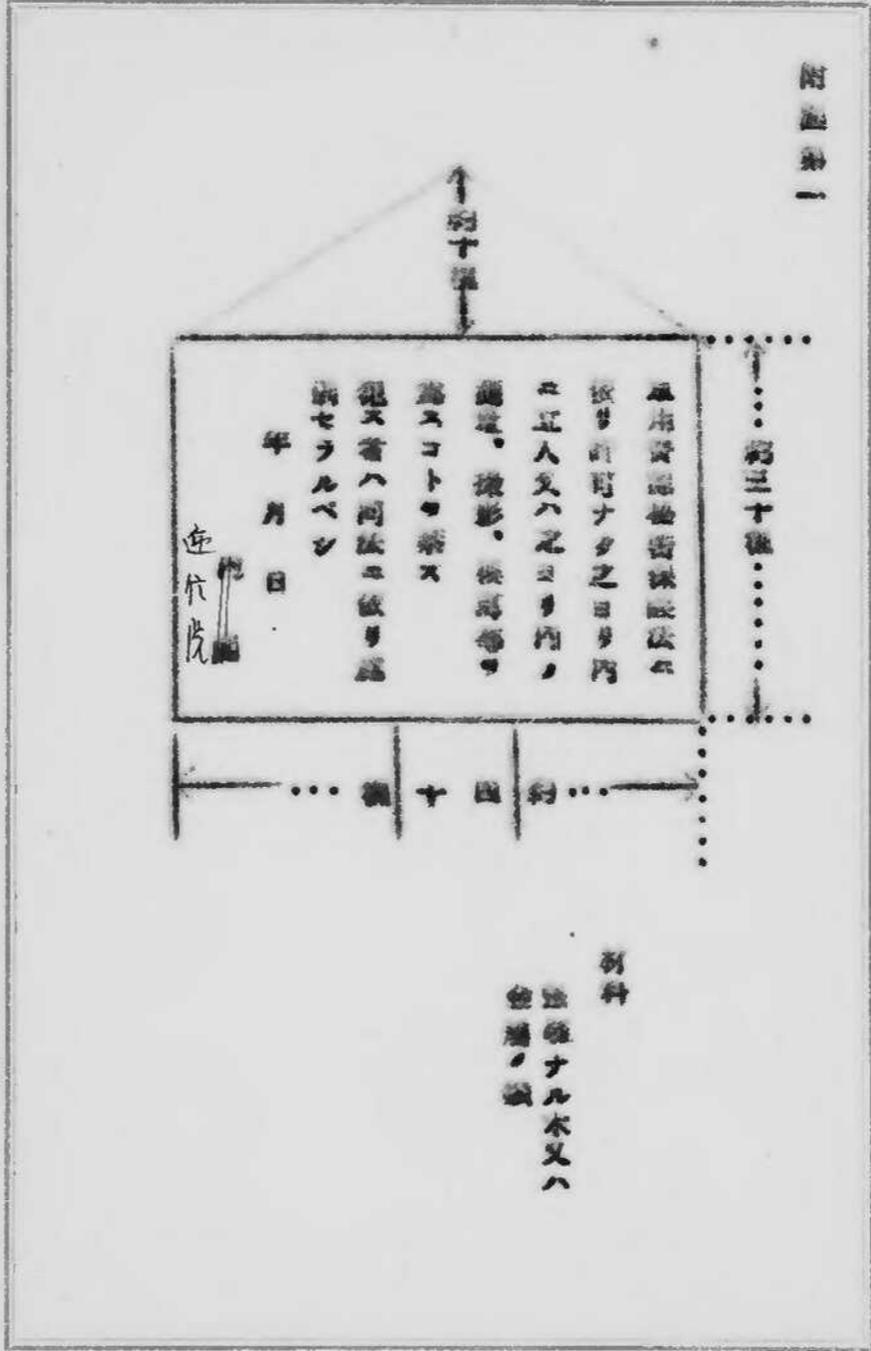
本令ハ昭和二十年^公布^布ノ^ノ月 日ヨリ之ヲ施行ス

遞信省

日本標準規格B5判

裏面白紙

附圖第一



封料
 封紙ナル木又ハ
 包紙ノ紙

選信省

別記第一様式

<p>立人 (關東、關西、關中、關東、關西、關中) 許可願</p> <p>本 籍 (外國人ニ在リテハ國籍)</p> <p>任 所</p> <p>氏 名 印</p> <p>昭和 年 月 日</p> <p>内閣總理大臣 殿</p> <p>左記ノ立人 (關東、關西、關中、關東、關西、關中) 或ハ其ノ行許可願成度候也</p> <p>左 記</p>	
<p>一、目 的</p> <p>二、政務ノ所在地及名稱</p> <p>三、組織 (圖書部等)</p>	<p>送 信 省</p>

日本標準規格B5判

裏面白紙

裏面白紙

四目 時 (病儀)
 五万 法
 六 使用器具類ノ名稱
 七 作樂者ノ住所・氏名及年輪
 八 作樂ノ場所
 九 祝米類ノ員數及其ノ用途
 十 其ノ他諸事トナルベキ事項

注意

一 用 紙 日本標準規格ニ列西番 (大体半紙汎大)
 二 目 的 送達期ノ新明樂等許可ヲ受クベキ事由ヲ記載スルベ
 ノトス
 三 取 扱 所 所在地及名稱 何縣何郡何村何番地何家何番何延信所等
 ト記載スルベトス
 四 取 扱 一 通 書 物 件 一 通 書 物 件 一 通 書 物 件 一 通 書 物 件 一 通 書 物 件

送 信 省

裏面白紙

ルトキハ様形、候為、候為等々為スベキ諸書御件ノ名稱ヲ記載ス
ルモノトス

五日 時(抽圖) 例年何月何日午前何時又ハ例年何月何日

リ例月何日迄等ト記載スルモノトス

六方 法 平面測量、測量等ト記載スルモノトス

七使用器具類ノ名稱 例測量器、例測量等ト記載スルモノトス

八作業書ノ住所、氏名及年齢 現ニ作業ニ従事セシムル者ノ住所、

氏名及年齢ヲ記載スルモノトス

九作業ノ場所 例縣例郡例村例番地等ト測量圖ノ作成、寫真、現

像又ハ進行等々行フ場所ヲ記載スルモノトス

七測量器ノ員數及其ノ用途 測量ノ成果、寫真原圖、復寫圖書等

例像又ハ例像等及測量器新増乘ノ為等ト記載スルモノトス

十立入ノミノ許可ヲ受ケントスルモノハ左記第五條乃至第十條ノ

事項ハ記載ヲ要セザルモノトス

送 信 省

第二様式

專用費課秘書、開示（交付、公ニスルコトノ）許可願

不
審
所
長

年 月 日

内閣總理大臣 殿

左記、通車用費課秘書、開示（交付、公ニ）致座ニ付許可願成度候也

左 記

一、目 的

二、事項、圖書案件

三、圖書案件ノ員數

四、日 時

氏 名 印

年 月 日

送 信 省

裏 面 白 紙

裏面白紙

五万 法
六 配示、交付ノ相手方ノ住所、敬號及氏名
七 其ノ遺留事トナルベキ事項

注 意

一、用 紙 日本標準規格B列四番（大体系紙判大）

二、目 的 簡取引、両当事ノ會合ニ於ケル諸事項ト記載スル事
トス

三、万 法 何某ノ同意ニ仕ス、何某ニ憑依シテ交付事ト記載ス
ル事トス

四、配示、交付ノ相手方ノ住所、敬號及氏名 附示シ又ハ交付スル

相手方ノ住所（外國人ニ在リテハ國籍共）敬號及氏名（法人其ノ
他ノ團體ニ在リテハ代表者ノ住所、氏名及其ノ職、團體中ニ外

國人アルトキハ其ノ國籍、住所、敬號及氏名）ヲ記載スル事トス

遊 信 省

日本標準規格B列

裏面白紙

逓信院告示第 號

逓信院設置ニ伴フ逓信省告示、厚生省告示及逓信院告示中改正ノ件左ノ通定ム

昭和二十年 月 日

逓信院總裁 名

一本告示^{第一號}以下ニ規定スルモノ及別ニ定ムルモノヲ除クノ外「逓信院總裁」ヲ「逓信院總裁」ニ、「逓信院」ニ、「逓信院貯金保險局長」ニ、「逓信院貯金保險局長」ニ、「逓信院貯金保險局長」ニ改ム

逓信院印

逓信院貯金保險局長」ヲ「逓信院貯金保險局長」ニ改ム

逓信院印

逓信院貯金保險局長」ヲ「逓信院貯金保險局長」ニ改ム

二昭和十八年^{十一月}逓信院告示第一號中「逓信院官制第二十三條」ヲ「逓信院官制第三十條」ニ改ム

逓信省

逓信省

裏面白紙

三 昭和十八年^十月^一日通信告示第二號中「通信院官制第二十四條」ヲ「通信院官制第三十一條第一項」ニ「通信院」ヲ「逓信院」ニ改ム

逓信省

日本標準規格 B5 判

附 則

本告示ハ本日より之ヲ施行ス
昭和十三年厚生省告示第五號ニ依リ従前調製シタル用紙ハ當分ノ内處^其
ノ儘之ヲ使用スルコトヲ得

逓 信 省

日本標準規格JIS紙

裏面白紙

裏面白紙

公 務 案 ノ 一

公 務 案

號

遞 信 部 内 一 般

今般遞信院官制施行ト同時ニ遞信省官制、遞信院官制改正セラレタルニ付テハ従前ノ様、公署、通商、告承等ニ掲グル官署名、官職名ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外夫々相當變更セラレタルモノト心得ベシ

昭和二十年 月 日

遞 信 院 院 長

遞 信 省

裏面白紙

公 報 第 二

公 報 第 二

逓 信 部 内 一 般

逓信通信公報（通信法）發行規程外七件中左ノ通改正ス

昭和二十年五月 日

逓 信 院 議 決

第一條 逓信通信公報（通信法）發行規程中左ノ通改正ス

題名ヲ「逓信公報發行規程」ニ改ム

第一條 逓信事務ニ關スル法令其ノ他ノ事項ヲ涵蓋スル爲逓信公報

逓 信 省

裏面白紙

(以下公報ト稱ス)ヲ發行ス

公報ノ發行者ハ官房文書課長トス

第三條中第七號ヲ削リ第八號ヲ第七號トシ以下順次一編編上ク

第二條 逓信局規程中左ノ語改正ス

第二條中「逓信公報(逓信版)」ヲ「逓信公報」ニ改ム

第三條 逓信法規範草案訂正規程中左ノ語改正ス

第一條中「逓信公報(逓信版)」ヲ「逓信公報」ニ改ム

第四條 逓信共済組合事務規程中左ノ語改正ス

本規程中「逓信局長」ニ改ム
「逓信局長」ニ改ム

逓信省

第二條中部局及支線局ノ表中「逓信院」ヲ「逓信院」ニ、「逓信省」ヲ「逓信省」ニ改ム

第五條 逓信共済組合從軍者特別規程中左ノ語改正ス

第十條中「逓信院總裁」ヲ「逓信院次長」ニ改ム

第六條 逓信共済組合財務審査規程中左ノ語改正ス

第三條中「逓信院部内」ヲ「逓信院」ニ、「逓信院總裁」ヲ「逓信院次長」ニ改ム

第七條 逓信共済組合積立金貸付規程中左ノ語改正ス

本規程中「逓信院總裁」ヲ「逓信院次長」ニ改ム

第十八條中「逓信省」ヲ「内閣」ニ改ム

裏面白紙

第八條 遞信共済組合購買部規程中左ノ補改正ス

本規程中「逓信院總長」ヲ「逓信院次長」ニ改ム

附 則

本公司ハ本日ヨリ之ヲ施行ス

逓信省

日本郵便株式会社

逓信省郵便局

裏面白紙

逓信院公達第

號

公達第 三

逓信院 逓信局

逓信院監督工場規程施行細則左ノ通定メ昭和二十年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

昭和二十年 月 日

逓信院 總裁 名

第一條 逓信院監督工場規程（以下規程ト稱ス）ニ依ル逓信院監督工場（以下監督工場ト稱ス）ノ指定ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル指定番ヲ交付シテ之ヲ爲ス

一 會社ノ名稱及本社所在地

二 當該工場事業場ノ名稱及所在地

三 當該監督物資ノ範圍及其ノ主務廳長

四 其ノ他必要ト認ムル事項

第二條 主務廳長規程第一條ニ依ル監督工場ノ指定ヲ要スルモノアリト認ムルトキハ當該事業主ノ同意書（別記様式第二號）ヲ添附シ逓信院監督工場指定稟申書（別記様式第一號）ヲ内閣總理大臣ニ提出スベシ

逓信省

裏面白紙

第三條 主務廳長監督工場ニ對シ監督官ノ配置ヲ爲ス場合ニ於テ當該監督工場ニ付但ノ主務
廳長ノ配置ニ依ル監督官アルトキハ當該主務廳長ニ協議ノ上其ノ指導監督事務ヲ當該監督
官ニ委嘱スルコトヲ得

第四條 主務廳長監督官ヲ配置シタルトキハ其ノ旨關係主務廳長ニ通知スベシ

第五條 監督官ハ當該監督工場ニ配置セラレタル他ノ監督官ト緊密ナル連絡ヲ保持スベシ

第六條 監督工場ニ關シ指導監督ノ十全ヲ期スル爲メ逓信院内ニ監督工場運用協議會ヲ置ク、
前項ノ協議會ノ組織等ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

別記様式第一號

逓信院監督工場指定稟申書

主務廳長名

年月日

内閣總理大臣宛

一、會社名、本社所在地、代表者名

逓信省

裏面白紙

二、資本金

三、工場事業場名

四、工場事業場所在地

五、従業員数

六、主要生産品目及最近一ケ年ノ生産額

七、主要生産品ノ納入先及ニ其ノ納入高又ハ割合

八、他省ノ監督指定ノ有無

九、指定ヲ必要トスル理由

別記様式第二號

同 意 書

逓信院監督工場規程第一條ニ依リ左記幣社工場（又ハ事業場）ヲ逓信院監督工場トシテ指定セラルルコトニ異存無之候也

記

逓信省

年 月 日

學業主 氏

名

内閣總理大臣 宛

遞 信 省

日本標準規格JIS

裏 面 白 紙

裏面白紙

去不

單上ノ諸君ノ行ノ外通務通院者全撤
ニテ保ヲ有ル内定合ノモノニシテ通院初内
ノモノノ之別ニ制定ヲ要スルモノハ内閣生不
又ハ通院院生不ヲ以テ改止又ハ單独制
定ヲ行フ
高運信院生不ヲ以テ改止又ハ單独制
定ヲ存スルニ付テハ別途経同ノ事トス

去

省令中

- 一 通務通院大臣ヲ内閣総理大臣ニ譲替フモノ 五件
- 二 行ニ制定スルモノニシテ通務通院大臣ヲ内閣総
理大臣ト為スモノ 二件
- 三 通務通院大臣ヲ通院院總裁ニ譲替フモノ 九件

全

露光量違いにより重複撮影

裏面白紙

閣令第一〇七號

逓信院設置ニ伴フ逓信省令及運輸逓信省令中改正ノ件左ノ通定ム

昭和二十年五月五日 内閣總理大臣 男爵 鈴木貫太郎

第一條 本令第二條以下ニ規定スルモノ及別ニ定ムモノヲ除クノ外逓

信省令及運輸逓信省令中「逓信院總裁」ヲ「逓信院總裁」ニ、「逓

信院」ヲ「逓信院」ニ、「逓信部内ノ官署」ヲ「逓信官署」ニ、「

逓信部内」ヲ「逓信部内」ニ、「逓信部外」ヲ「逓信部外」ニ、「

逓信院業務局」ヲ「逓信院業務局」ニ、「逓信院貯金保險局長」ヲ

「逓信院貯金保險局長」ニ、「逓信院貯金保險局」ヲ「逓信院貯金

保險局」ニ改ム

第二條 左表上欄ニ掲グル逓信省令及運輸逓信省令中欄ノ字句ヲ下欄

ノ通改ム

逓信省

附全

附令第一〇七號

逓信院設置ニ伴フ逓信省令及逓信省令中改正ノ件左ノ通定ム

昭和二十年 月 日 内閣總理大臣 男爵 鈴木 貫太郎

第一條 本令第二條以下ニ規定スルモノ及追加ニ定ムモノヲ除クノ外逓

信省令及逓信省令中「逓信院總務」ヲ「逓信院總務」ニ、「逓

信院」ヲ「逓信院」ニ、「逓信部内ノ官署」ヲ「逓信官署」ニ、「

逓信部内」ヲ「逓信部内」ニ、「逓信部外」ヲ「逓信部外」ニ、「

逓信院業務局」ヲ「逓信院業務局」ニ、「逓信院貯金保險局長」ヲ

「逓信院貯金保險局長」ニ、「逓信院貯金保險局」ヲ「逓信院貯金

保險局」ニ改ム

中

第二條 左表上欄ニ掲グル逓信省令及逓信省令中標ノ字句ヲ下欄

ノ通改ム

露光量違いにより重複撮影

裏面白紙

裏面白紙

<p>通信院屬補・遞信局書記補及通信書記補試驗規則</p>	<p>運輸通信省通信事業關係許可認可等臨時措置令施行規則</p>	<p>遞信共濟組合從業者特別規則</p>	<p>私設電信規則</p>	<p>同報無線電報規則</p>	<p>國際放送電報規則</p>	<p>電氣通信技術者資格檢定規則</p>
<p>通信院屬補 運輸通信部內</p>	<p>運輸通信省通信事業關係許可認可等臨時措置令施行規則</p>	<p>運輸通信部外 遞信、海運又ハ航空ニ關スル事務</p>	<p>運輸通信大臣 運輸通信大臣又ハ 遞信院總裁</p>	<p>運輸通信大臣</p>	<p>運輸通信大臣</p>	<p>運輸通信大臣</p>
<p>遞信院屬補 遞信部內</p>	<p>通信事業關係許可認可等臨時措置令施行規則</p>	<p>內閣總理大臣 遞信官署外 遞信ノ業務</p>	<p>遞信院總裁 遞信院總裁</p>	<p>內閣總理大臣</p>	<p>內閣總理大臣</p>	<p>遞信院總裁</p>

遞信省

裏面白紙

昭和十六年遞信省令第三十四號	運輸通信大臣	遞信院總裁
昭和十六年遞信省令第一百七號	運輸通信大臣	遞信院總裁
昭和十六年遞信省令第九十一號	運輸通信大臣	遞信院總裁
郵便貯金規則	運輸通信大臣	遞信院總裁
簡易生命保險及郵便年金積立金融通規則	運輸通信大臣	內閣總理大臣
無線通信士資格檢定規則	運輸通信大臣	遞信院總裁
「エツクス」線量計檢定規則	運輸通信大臣	遞信院總裁

遞信省

日本標準規格150列

裏面白紙

第三條 大正二年九月逓信省令第九十號運輸通信大臣ノ主管ニ屬スル
公益法人ノ設立及監督ニ關スル規則中左ノ通改正ス

題名中「運輸通信大臣ノ主管ニ屬スル公益法人」ヲ「内閣總理大臣
ノ主管ニ屬スル逓信關係公益法人」ニ改ム

第一條中「運輸通信大臣ノ許可ヲ得テ法人」ヲ「内閣總理大臣ノ許
可ヲ得テ逓信ニ關スル法人（以下法人ト稱ス）」ニ、「運輸通信大臣」ヲ「
内閣總理大臣」ニ改ム

第二條中「運輸通信大臣」ヲ「内閣總理大臣」ニ改ム

第三條第一項中「運輸通信大臣」ヲ「内閣總理大臣」ニ改メ第三項
中「運輸通信大臣」ヨリ補助金ノ支給ヲ受クル法人ニシテ」ヲ削リ
「場合ニ於テハ」ヲ「法人ニ在リテハ」ニ改ム

逓信省

第四條中「逓輸逓信大臣」ヲ「内閣總理大臣」ニ改メ逓信局長ノ下
ノ割當ヲ削ル

逓
信
省

日本標準規格JIS

裏
面
白
紙

裏面白紙

第四條 遞信共済組合規則中左ノ通改正ス

第二條中「運輸通信大臣」ヲ「遞信院總裁」ニ改ム

第三條中「通信院總裁」ヲ「遞信院次長」ニ改ム

第三條ノ二中第四號及第五號ヲ削ル

第三條ノ三第二項（表）中第十三級以下ヲ左ノ通改ム

第十三級	百三十五圓以上 百四十五圓未滿	千六百八十圓	百四十圓	四圓七十錢
第十四級	百四十五圓以上 百五十五圓未滿	千八百圓	百五十圓	五圓
第十五級	百五十五圓以上 百六十五圓未滿	千九百二十圓	百六十圓	五圓三十錢
第十六級	百六十五圓以上 百七十五圓未滿	二千四十圓	百七十圓	五圓七十錢
第十七級	百七十五圓以上 百八十五圓未滿	二千百六十圓	百八十圓	六圓

遞信省

裏面白紙

第十八級	百八十五圓以上 百九十五圓未滿	二千二百八十圓	百九十圓	六圓三十錢
第十九級	百九十五圓以上	二千四百圓	二百圓	六圓七十錢

第五條中「逓信院、電氣試験所、逓信講習所、無線電信講習所、逓信局、通信官署、」ヲ「逓信官署」ニ改メ、「運輸通信省海運總局、船舶試験所、高等商船學校、商船學校、航海訓練所、海員養成所、海運局、船員職業紹介所、高等海員審判所、地方海員審判所、運輸通信省航空局及航空機乘員養成所」ヲ削リ同條第一號中「千八百二十圓」ヲ「二千四百二十圓」ニ同條第三號本文中「通信、海運又ハ航空ニ關スル」ヲ「逓信官署ノ」ニ改メ、但書ヲ削ル

第四十一條中「運輸通信部内」ヲ「逓信官署」ニ改ム

逓信省

日本國平稅法附則

裏面白紙

第百四條ノ二中「通信院總裁」ヲ「逓信院次長」ニ改ム
第百七條、第百九條、第百十一條及第百十二條中「運輸通信部内」
ヲ「逓信院」ニ、「運輸通信大臣」ヲ「逓信院總裁」ニ改ム
第百十七條中「運輸通信大臣」ヲ「逓信院總裁」ニ、「通信院總裁」
ヲ「逓信院次長」ニ改ム
第百十八條中「運輸通信大臣」ヲ「逓信院總裁」ニ改ム

逓信省

裏面白紙

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和十九年運輸通信省令第六十一號 及同十九年奉同第一百十二號ノ規定
ニ依リ従前調製シタル用紙ハ當分ノ内其ノ儘使用スルコトヲ得

逓 信 省

日本標準規格印刷

裏面白紙

案ノ三

閣令第一一號

國家總動員法 第四條ノ規定ニ基キ逓信官署ニ徵用セラレタル者ニ對スル給與等ニ關スル件左ノ通定ム

昭和二十年 月 日 内閣總理大臣 名

國家總動員法第四條ノ規定ニ基キ逓信官署ニ徵用セラレタル者ニ對スル給與等ニ關スル件

第一條 國家總動員法第四條ノ規定ニ基キ逓信官署ニ徵用セラレタル者（以下被徵用者ト稱ス）ノ職務、賞罰、服制、待遇、給與及旅費ニ關シテハ別ニ規定セララル、モノヲ除クノ外本令ニ定ムル所ニ依ル

逓信省

第二條 被徵用者ノ服務、賞罰、服制、待遇及給與ニ關シテハ被徵用者カ現ニ業務ニ從事スル遞信官者（以下就業廳ト稱ス）ニ於ケル雇員又ハ傭人ニ付定ムル規定ヲ準用ス但シ被徵用者ノ手當又ハ給料ノ初給基本額ハ被徵用者カ徵用前官公者ニ勤務シタル者ニ在リテハ當該官公者ニ於ケル從前ノ支給額ヲ其ノ他ノ者ニ在リテハ別表第一號表ヲ基準トシ就業廳ニ於テ之ヲ決定ス

第三條 被徵用者徵用令書ニ記載シアル出張場所タル遞信官署（以下出張廳ト稱ス）ニ出張スルトキ及出張廳ヨリ就業廳ニ赴クトキ竝ニ徵用ヲ解除セラレ徵用セラレタル當時ニ於ケル居住地ニ歸郷スル場合ニ於テハ就業廳ニ於ケル雇員又ハ傭人ノ赴任ノ例ニ依リ内閣旅費ニ關スル規定ニ定ムル旅費ヲ支給ス但シ居住地、出張廳所在地及就

業廳所在地間ハ各地間ヲ通ジテ之ヲ一赴任旅行ト看做ス

第四條 徵用ヲ解除セラレタル者徵用ノ期間中ニ其ノ居住地ヲ徵用セラレタル當時ニ於ケル居住地以外ノ地ニ定メタル場合ニ於テハ前條ニ定ムル歸郷ノ場合ニ準シ新居住地ニ至ル旅費ヲ支給ス但シ其ノ支給スベキ旅費ノ額ハ徵用セラレタル富持ニ於ケル居住地ニ至ル旅費ノ額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第五條 第三條ノ規定ニ依リ支給スベキ家族移轉料ハ徵用ノ期間一年以上ニ亙ル場合ニ於テ徵用者其ノ家族ヲ就業廳所在地(就業廳ニ通勤シ得ル附近ノ地域ヲ含ム)ニ移轉セシメタルトキニ限り之ヲ支給ス

第六條 第三條ノ規定ニ依リ支給スベキ着後手當及移轉料ハ前條ノ規定ニ依リ家族移轉料ヲ支給スベキ事實ノ生ジタルトキニ限り之ヲ支給ス

第七條 被徵用者徵用ヲ解除セラレ歸郷スル場合ニ於テ第三條及第四條ノ規定ニ依リ支給スベキ旅費ハ前二條ノ規定ニ依リ家族移轉料、着後手當及移轉料ノ支給ヲ受ケタル者ニハ之ヲ支給セズ

第八條 被徵用者其ノ家族ノ危篤又ハ死亡ノ爲就業廳ノ長ノ許可ヲ受ケ一時歸郷スルトキハ別表第二號衣定額ニ依リ就業廳所在地家族ノ居住地間ノ往返ニ要スル旅費ヲ支給ス

被徵用者前項ノ規定ニ該當セザル事由ニ依リ一時歸郷中其ノ家族危篤ニ陥リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ就業廳ノ長必要アリト認ムルトキハ別表第二號表定額ニ依リ返路ニ要スル旅費ヲ支給スルコトヲ得

第九條 被徵用者ノ危篤又ハ死亡ノ爲就榮廳ノ長ノ通知ニ依リ其ノ家族出頭スルトキハ一人ヲ限り別表第二號表定額ニ依リ家族ノ居住地被徵用者ノ就榮廳所在地向ノ往返ニ要スル旅費及到着ノ日ヨリ起算シ三日以内ノ滞在ニ要スル旅費ヲ支給ス

被徵用者ノ危篤ニ因リ其ノ家族出頭ノ途中被徵用者死亡シタルトキハ之ヲ被徵用者ノ死亡ニ因ル出頭ト看做ス

被徵用者ノ危篤ニ因リ其ノ家族出頭シタル後被徵用者死亡シタルトキハ死亡ノ日ヨリ起算シ更ニ三日以内ノ滞在ニ要スル旅費ヲ支給ス但シ到着ノ日ヨリ起算シ過ジテ五日ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十條 前條ノ規定ニ該當セザル事由ニ依リ被徵用者ノ家族出頭中
被徵用者危篤ニ陥リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ就榮廳ノ長必要ア

リト認ムルトキハ別表第二號表定額ニ依リ返路ニ要スル旅費及危篤
又ハ死亡ノ日ヨリ起算シ各三日以内ノ滞在ニ要スル旅費ヲ支給スル
コトヲ得但シ危篤及死亡ヲ過ジテ五日ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十一條 前三條ノ規定ニ依リ支給スベキ旅費ハ被徵用者ノ家族ガ就
業廳所在地ニ居住スル場合ニ於テハ之ヲ支給セズ但シ出頭シタル家
族就業廳所在地ニ宿泊ヲ要スルトキハ宿泊料ニ限り之ヲ支給スルコ
トヲ得

第十二條 前三條ノ規定ニ依リ支給スル旅費ノ額ハ家族ガ十二歳未満
ナルトキハ其ノ半額トス

第十三條 被徵用者就業廳所在地以外ノ地ニ在ル場合ニ於ケル第八條
乃至第十一條ノ適用ニ付テハ當該地ヲ就業廳所在地ト看做ス但シ私

裏面白紙

學ノ爲就業職所在地以外ノ地ニ在ル場合ニ於テ支給スベキ旅費ノ額
ハ家族ノ居住地就業職所在地間ニ付計算シタル額ヲ越ユルコトヲ得ズ
第十四條 前六條ニ於テ家族トハ配偶者（届出ヲ爲ササルモ事實上婚
姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ含ム）、直系卑族、直系尊族及戸主
ヲ謂フ

被徵用者危篤又ハ死亡ノ際ニ於テ前項ノ家族ナキトキ又ハ事故ニ因
リ前項ノ家族出頭シ難キ場合ニ於テハ被徵用者ノ親族中就業職ノ長
ノ職ニシテ一人ヲ限リ其ノ家族ト看做スコトヲ得

第十五條 第三條乃至第六條ノ規定ニ依ル旅費ハ被徵用者ノ居住地ヨ
リ出頭職ニ出頭スルトキ及出頭職ヨリ就業職ニ赴クトキハ出頭職ニ
於テ其ノ他ノ場合ニ於テハ就業職ニ於テ之ヲ支給ス

遞信省

第十六條 旅賃ノ前拂ヲ爲スニ非ザレバ被徵用ニ應ズルコト能ハザル者ニ對シテハ被徵用者ノ居住地ノ市町村（東京都中區ノ存スル區域ニ在リテハ東京都）又ハ之ニ準ズベキモノ（以下市町村ト稱ス）ニ於テ被徵用者ノ居住地ヨリ出頭廳所在地迄ノ順路ニ依リ列表第三號表定額ニ依ル旅賃ヲ一時繰替支給スベシ

第十七條 市町村前條ノ旅賃ノ繰替支給ヲ爲シタルトキハ被徵用者出頭旅賃受領證（別紙様式）ヲ被徵用令書裏面ニ支給市町村名、支給年月日及「旅賃金何圓何拾錢也支給済」ト記載印シ被徵用者ニ返付スルト共ニ證據書ヲ具シ其ノ拂戻ヲ被徵用者ノ出頭廳ニ請求スベシ

第十八條 出頭廳ハ前條ノ旅賃繰替支給額ヲ調査シ被徵用者ニ支給ス

裏面白紙

ベキ紙質ノ中ヨリ當該市町村ニ對シ其ノ拂戻ヲ爲シ殘額ハ之ヲ本人
ニ支給スベシ

該市町村ニ對シ拂戻ヲ爲スルトキハ超過額ハ之ヲ本人ヨリ徴収シ
當該市町村ニ對シ拂戻ヲ爲スベシ

第十九條 紙質ノ支給ニ關シテハ本令ニ定ムルモノノ外賦課額ニ於ケ
ル内國紙質ニ關スル決定ヲ準用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

遞 信 省

日本標準規格 B5 47

68
2/3

別表第一號表

加實 算一 年二 付額	當該年 度卒業 者		區 分
	事務者	技術者	
五・三	七五・六〇	八五・七〇	大學令ニ依ル 大學卒業者及 之ニ準ズル學 歴ヲ有スル者
四・二	六〇・四五	七〇・五五	專門學校令ニ 依ル專門學校 卒業者及之 ラニ準ズル學 歴ヲ有スル者
三・二	四二・三〇	四五・三三	中等學校令ニ 依ル國民學校 及高等科修了 者之ニ準ズル 學歴ヲ有スル 者
一・五		二四	國民學校令ニ 依ル國民學校 修了者及之 ラニ準ズル者 ハ及之
一・五		二一	國民學校令ニ 依ル國民學校 初等科修了 者及之ラニ 準ズル者

備考 本表ニ依リ難キ者ノ初給基本額ハ其ノ者ノ經歷、技能程
度、從事スル業務場所等ニ應ジ且從前ノ給與其ノ他之ニ準
準ズベキ收入ヲ斟酌シ就業處ニ於テ定ムルモノトス

選 信 省

裏 面 白 紙

裏面白紙

別表第二號表

家 族	被 復 用 者	區 分	
		旅	費
、 〇 八	、 〇 五	車馬具二杆二付	日當一日二付
、 〇 〇	、 七 〇	宿泊料一夜二付	食卓料一夜二付
四 〇 〇	三 〇 〇		
、 一 、 二 〇	、 一 〇 〇		

備考一、日當、宿泊料ハ朝鮮、台灣及樺太ニ在リテハ本表定額ノ
二割増トス
三、鐵道貨及船貨三等又ハ最低旅客船貨及急行料並トス

遞
信
省

裏面白紙

別表第三號表

區分	旅費額		
	日當一日二付	宿泊料一夜二付	食卓料一夜二付
内地	二、〇〇〇圓	五〇〇圓	一、〇〇〇圓
朝鮮、台灣、樺太内地	二、四〇〇	六〇〇	一、〇〇〇

備考 鐵道賃及船賃ハ三等又ハ最低ノ旅客運賃及急行料金トス

遞信省

裏面白紙

別表様式

被徵用者出張旅費受領證書

一金

内 譯

支給年月日	繰替支給額	住 所	出張處	受領者氏名印
何年何月何日		何府(廳)何郡(市) 何町(村)何番地		何 某 印

右ノ通繰替支給致候條換戻相成度

何府(縣)何郡(市)何町(村)長 氏 名 印

遞 信 省

日本郵政規程第141條

裏面白紙

案ノ四

閣令第一〇〇號

逓信院監督工場規程左ノ通定ム

昭和二十年 月 日

内閣總理大臣 名

逓信院監督工場規程

第一條 内閣總理大臣通信ノ用ニ供スル物資ノ確保上必要アリト認
ムルトキハ此等ヲ生産スル民間工場事業場ノ事業主ノ同意ヲ得テ
當該工場事業場ヲ逓信院監督工場事業場（以下逓信院監督工場ト
稱ス）トシテ指定スルコトヲ得

第二條 逓信院監督工場ノ指定ハ内閣總理大臣當該工場事業場ノ事
業主ニ對シ其ノ工場事業場ノ名稱及所在地並ニ事業名ヲ記載シタ
ル指定書ヲ交付シテ之ヲ爲ス

逓信省

裏面白紙

第三條 遞信院總裁、遞信局長及遞信管理部長（以下主務廳長ト稱ス）ハ其ノ所掌スル所ニ從ヒ左ノ職員ヲ遞信院監督工場ニ配置シ之ガ監督、指導及斡旋ニ關スル事務ヲ掌ラシム

監督官 補官

監督官ハ高等官ヲ以テ、監督官補ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 主務廳長前條ノ監督官又ハ監督官補ヲ配置シタルトキハ當該遞信院監督工場ノ事業主ニ對シ其ノ監督官又ハ監督官補ノ官職氏名ヲ通知スベシ

第五條 遞信院監督工場ノ事業主ハ當該事業ノ實施ニ關シ監督官又ハ監督官補ノ指導ニ從フモノトス

第六條 監督官ハ主務廳長ノ命ヲ承ケ其ノ配置セラレタル遞信院監督工場ニ付左ノ事務ヲ掌ル
一、作業及設備ノ指導、監督ニ關スル事項

遞信省

裏面白紙

- 二 技術及經理ノ調査、監督ニ關スル事項
 - 三 原價ノ調査研究ニ關スル事項
 - 四 従事員ノ勤勞管理ノ指導監督ニ關スル事項
 - 五 機密保持ノ監督ニ關スル事項
 - 六 防衛ノ指導、監督ニ關スル事項
 - 七 資材、資金、勞務、動力、輸送力等ノ取得確保ノ指導斡旋ニ關スル事項
 - 八 遞信院ノ發注又ハ調辨ニ係ル物資ノ納入ニ關スル事項
 - 九 其ノ他生産ノ隘路補正上必要ナル事項
- 監督官ハ前項第八號ニ掲グル物資ノ原價調査ニ關シテハ當該契約擔任官ノ區處ヲ承クルモノトス
- 第七條 監督官補ハ監督官ヲ輔佐シ前條第一項各號ニ掲グル事務ニ従事ス

附則

本令ハ昭和二十年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

遞信省

裏面白紙

運輸通信省監督工場規程ニ依リ指定セラレタルモノノ内通信院總裁
又ハ遞信局長ヲ主務廳長トスルモノハ之ヲ本令ニ依リ指定セラレタ
ルモノト看做ス

遞信省

日本標準及信尺列

裏面白紙

勅令第一〇三號

案ノ上

内閣總理大臣ノ指定ニ係ル軍用資源秘密ノ保護ニ關スル件左ノ通定ム

昭和二十年 月 日 内閣總理大臣名

内閣總理大臣ノ指定ニ係ル軍用資源秘密ノ

保護ニ關スル件

第一條 本令ハ軍用資源秘密保護法（以下法ト稱ス）第二條ノ規定ニ

依ル内閣總理大臣ノ指定ニ係ル軍用資源秘密ノ保護ニ關スル事項ヲ

規定スルモノトス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ法第二條本文ノ規定ニ依リ之

ヲ軍用資源秘密トシテ指定ス

遞信省

裏面白紙

一、昭和十三年一月以降ニ於ケル都廳府縣、總軍司令部、軍管區司令部、師管區司令部、要塞司令部、鎮守府、警備府所在地相互間ヲ連絡スル電信、電話、無線電信又ハ無線電話各別ノ回線總數及同上區間ニ於ケル電氣通信ノ疏通能力竝ニ此等ヲ表示スル記錄圖表

二、昭和十三年一月以降ニ於ケル内地ト朝鮮、臺灣、關東州、滿洲國又ハ中華民國トヲ連絡スル電信、電話、無線電信又ハ無線電話各別ノ回線總數及同上區間ニ於ケル電氣通信ノ疏通能力竝ニ此等ヲ表示スル記錄圖表

第三條 內閣總理大臣法第二條第十五號ニ該當スル軍用資源秘密ニ屬スル設備ヲ秘匿スル爲必要アルトキハ當該設備ノ場所ニ附圖第一ニ定ムル標識ヲ設置シ又ハ當該設備ノ管理者若ハ之ニ準ズベキ者（以

遞信省

裏面白紙

下管理者ト稱ス）ヲシテ遮蔽其ノ他ノ措置ヲ爲サシム

第四條 附圖第一ニ定ムル標識ヲ設置シタル設備ノ場所ニ付テハ法第六條ノ規定ニ依リ之ニ付立入又ハ閱覽、撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ爲スコトヲ得ズ

但シ内閣總理大臣ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニテラズ

前項但書ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケントスル者ハ別記第一様式ノ許可願書（三通）ヲ當該設備ノ管理者ヲ經テ内閣總理大臣ニ提出スベシ

第五條 遞信官署以外ノ官廳ニ於テ軍用資源秘密保護法施行令（以下令ト稱ス）第十二條ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスルトキハ前條ノ

許可願書ニ準ズル承認申請書（三通）ヲ内閣總理大臣ニ提出スベシ
第六條 法第二條第十二號及第十三號ニ該當スル軍用資源秘密ヲ外國

遞信省

裏面白紙

外國ノ爲ニ行動スル者若ハ外國人ニ開示シ、交付シ若ハ公ニシ又ハ
法第二條第十五號ニ該當スル軍用資源秘密ヲ他人ニ開示シ、交付シ
若ハ公ニスルコトノ許可ヲ受ケントスルモノハ別記第二様式ノ許可
願書（三通）ヲ内閣總理大臣ニ提出スベシ

第七條 遞信官署以外ノ官廳ニ於テ令第十八條ノ規定ニ依リ承認ヲ受
ケントスルトキハ前條ノ許可願書ニ準ズル承認申請書（三通）ヲ内
閣總理大臣ニ提出スベシ

第八條 内閣總理大臣第四條若ハ第六條ノ規定ニ依ル許可ヲ爲シ又ハ
第五條若ハ第七條ノ規定ニ依ル承認ヲ爲シ又ハ條件ヲ附シ許可若ハ
承認ヲ爲シタルトキハ附圖第二ニ定ムル許可證又ハ之ニ準ズル承認
證ヲ交付ス

遞信省

裏面白紙

前項ノ許可證又ハ承認證ヲ滅失シタル者ハ其ノ事由ヲ具シ當該設備ノ管理者ヲ經テ連滯ナク内閣總理大臣ニ届出テ必要ニ應ジ再下付ヲ申請スベシ此ノ場合ニ於テ未ダ再下付ヲ受ケザルトキト雖モ當該設備ノ管理者ノ承認ヲ受ケタルトキハ當該行爲ヲ繼續スルコトヲ得

第九條 許可證又ハ承認證ハ第四條第一項ニ規定スル行爲ヲ爲ス者必ズ之ヲ携帯シ何時ニテモ當該設備ノ看守者、憲兵又ハ警察官吏ノ要求ニ應ジ閱覽ニ供スベシ

第十條 許可證ヲ所持スベキ者前條ノ規定ニ依ル閱覽ヲ拒ミタルトキハ十圓以下ノ料科料ニ處ス

第十一條 第三條ニ規定スル標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無効ナラシメタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ料科料ニ處ス

逓信省

第十二條 本令ニ依リ内閣總理大臣ニ提出スベキ書類ハ所轄逓信局長
ヲ經由スベシ

附 則

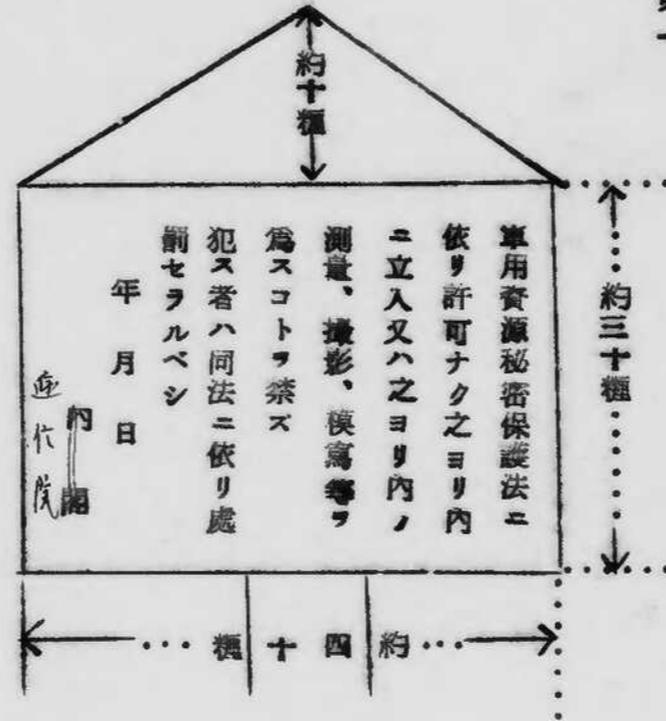
本令ハ昭和二十年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

逓 信 省

日本標準規格B5判

裏 面 白 紙

附圖第一



材料
強靱ナル木又ハ
金屬ノ類

裏面白紙

遞信省

附圖第二

表 面

第	號	昭和	年	月	日
内 閣 印					
軍用資源秘密保護法ノ立入 (測量撮影模寫複製) 許可證 (造錄取複製複製)					
一、	職業、氏名、年齡				
二、	設備、場所、設備、名稱				
三、	日 時				

裏面白紙

逓信省

別記第一様式

立入 (測量、撮影、模寫、模造、錄取、複寫、複製) 許可願

本籍 (外國人ニ在リテハ國籍)

住業所

氏名 年 齡 印

昭和 年 月 日

内閣總理大臣 殿

左記ノ通立入 (測量、撮影、模寫、模造、錄取、複寫、複製) 致度ニ付許可相成度候也

左記

一、目的

二、設備ノ所在地及名稱

三、區域 (圖書物件)

遞信省

裏面白紙

- 四日 時（期間）
- 五方 法
- 六 使用器具類ノ名稱
- 七 作業者ノ住所、氏名及年齢
- 八 作業ノ場所
- 九 成果物、員數及其ノ用途
- 七 其ノ他參考トナルベキ事項

注 意

- 一、用 紙 日本標準規格B列四番（大体半紙判大）
- 二、目 的 建造物ノ新增築等許可ヲ受クベキ事由ヲ記載スルモノトス
- 三、設備ノ所在地及名稱 何縣何郡何村何番地何電話局何送信所等ト記載スルモノトス
- 四、區域（圖書物件）區域ハ何設備ノ全部又ハ何部分等ヲ圖書物件ナ

逓 信 省

日本標準規格B列

裏面白紙

ルトキハ撮影、模寫、複寫等ヲ爲スベキ圖書物件ノ名稱ヲ記載ス
ルモノトス

五日 時(期間) 何年何月何日午前何時又ハ何年何月何日ヨ

リ何月何日迄等ト記載スルモノトス

六方 法 平面測量、油繪等ト記載スルモノトス

七使用器具類ノ名稱 何測量器、何寫眞器等ト記載スルモノトス

八作業者ノ住所、氏名及年齢 現ニ作業ニ從事セシムル者ノ住所、

氏名及年齢ヲ記載スルモノトス

九作業ノ場所 何縣何郡何村何番地等ト測量圖ノ作成、寫眞、現

像又ハ繪付等ヲ行フ場所ヲ記載スルモノトス

七成果物ノ員數及其ノ用途 測量ノ成果、寫眞原書、複寫圖書等

何部又ハ何枚等及建造物新增築ノ爲等ト記載スルモノトス

十一立入ノミノ許可ヲ受ケントスルモノハ左記第五號乃至第十號ノ

事項ハ記載ヲ要セザルモノトス

第二様式

軍用資源秘密ノ開示（交付、公ニスルコトノ）許可願

本籍
住所
職所

氏

年

名
印
齡

年月日

内閣總理大臣 殿

左記ノ通軍用資源秘密ノ開示（交付、公ニ）致度ニ付許可相成度候也
左記

- 一、目的
- 二、事項、圖書物件
- 三、圖書物件ノ員數
- 四、日時

逓信省

裏面白紙

裏面白紙

五方 法
六 開示、交付ノ相手方ノ住所、職業及氏名
七 其ノ他参考トナルベキ事項

注 意

- 一、用 紙 日本標準規格B列四番（大体半紙判大）
- 二、目 的 商取引、同業者ノ會合ニ於ケル講議等ト記載スルモノトス
- 三、方 法 何某ノ閱覽ニ任ス、何某ニ郵便ニテ送付等ト記載スルモノトス
- 四、開示、交付ノ相手方ノ住所、職業及氏名 開示シ又ハ交付スル相手方ノ住所（外國人ニ在リテハ國籍共）職業及氏名（法人其ノ他ノ団体ニ在リテハ代表者ノ住所、氏名及其ノ員數、団体中ニ外國人アルトキハ其ノ國籍、住所、職業及氏名）ヲ記載スルモノトス

遞 信 省

支不

内閣告示第一二二號

茶ノ一

逓信部内各縣ノ執務時間ヲ富分ノ間左ノ通定ム

年 月 日 内閣總理大臣 名

一 逓信部内各縣（東京都所在ノモノヲ除ク）ノ執務時間

四月 一日ヨリ 十月三十一日迄

午前八時ヨリ午後五時迄

十一月 一日ヨリ 三月三十一日迄

午前八時三十分ヨリ午後四時三十分迄

二 東京都内所在逓信部内各縣ノ執務時間

四月 一日ヨリ 十月三十一日迄

午前八時三十分ヨリ午後五時三十分迄

十一月 一日ヨリ 三月三十一日迄

午前八時三十分ヨリ午後四時三十分迄

逓信省

日本標準規格JIS

90

露光量違いにより重複撮影

裏面白紙

岩不

内閣告示第一〇一號

是後部内各縣ノ執行時間ノ面ガノ爲ニノ規定ム

年 月 日 内閣編纂大臣 名

一 是後部内各縣ニ於テ東京部初任ノモノヲ除クテノ執行時間

四月 一日ヨリ 十月三十一日迄

午前八時ヨリ午後五時迄

十一月 一日ヨリ 三月三十一日迄

午前八時三十分ヨリ午後四時三十分迄

一 東京部内初任是後部内各縣ノ執行時間

四月 一日ヨリ 十月三十一日迄

午前八時三十分ヨリ午後五時三十分迄

十一月 一日ヨリ 三月三十一日迄

午前八時三十分ヨリ午後四時三十分迄

露光量違いにより重複撮影

裏面白紙

裏面白紙

内閣告示第
昭和十八年 第 号
昭和十八年 月 日 内閣總理大臣名

部局名	各職員優遇令第五 條第三項ノ規定ニ依 ル稱號	各職員優遇令第九 條第四項ノ規定ニ依 ル稱號	各職員優遇令第 十二條第二項ノ規 定ニ依ル稱號
内閣官房 内閣總理大臣 秘書官附及内閣官 制第十條ノ國務 大臣ニ附屬スル 職員ヲ含ム	内閣王事		
恩給局			
統計局			

遞信省

日本標準規格JIS

遞信省

其ノ他ノ部局	通信官署
(部局名ヲ冠ス) 主事	通信主事
(部局名ヲ冠ス) 主事補	通信主事補
(部局名ヲ冠ス) 業務手	通信業務手

日本標準規格JIS

裏面白紙

閣
令
(各向提出資料)

93

裏面白紙

大日本帝國政府

省令中改正ヲ要スルモノ

明治二八年省令第二號昭和十八年運輸通信省令第八號改正

補、遞信局書記補及通信書記補試験規則中「通信院屬補」ヲ「遞信

院屬補」ニ、「通信院總裁」ヲ「遞信院總裁」ニ、「通信院」ヲ「

遞信院」ニ、「運輸通信部内」ヲ「内閣遞信部内」ニ、「通信院總

裁氏名宛」ヲ「遞信院總裁氏名宛」ニ改ム

(國定規格B5(182×257)毫米)

裏面白紙

裏面白紙

内閣総務大臣ノ主管ニ屬スル公益法人(逓信事業ニ關スルモノニ限ル)ノ設

立及監督ニ關スル規則

第一條 民法第三十四條ニ依リ内閣総務大臣ノ許可ヲ得テ法人ヲ設立セムトスル者ハ社團ニ在リテハ定款、資産ノ種類及總領社員ノ員數財團ニ在リテハ寄附行為並資産ノ種類及總額ヲ具シ運輸逓信大臣ニ申請スヘシ

(参照)

民法第三十條祭祀、宗教、慈善、學術、技藝其他公益ニ關スル社團又ハ財團ニシテ營利ヲ目的トセサルモノハ主務官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ法人ト爲スコトヲ得

第二條 法人ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間内ニ左ニ掲クル事項ヲ運輸逓信大臣ニ届出ツヘシ第一號ノ事項ニ付變更ヲ生シタル場合亦同シ

逓信省

裏面白紙

第三條 法人ハ前年末ノ現在ニ依リ毎年初ノ一月内ニ左ニ掲クル事項ヲ運輸通信大臣ニ届出ツヘシ但シ特ニ事業年度ヲ設クルモノニ在リテハ毎年度末ノ現在ニ依リ翌年度ノ初ノ一月内ニ之ヲ届出ツヘシ

一 法人ノ目的タル事業ノ状況

二 財産目録及收支計算表

社團法人ニ在リテハ前項ニ掲クル事項ノ外社員ノ員數ヲ届出ツヘシ前二項ノ規定ニ依ル届出ハ運輸通信大臣ヨリ補助金ヲ支給ヲ受ケル法人キシテ命令書ノ規定ニ依リ之ト同一ノ事項ヲ届出ツル場合ニ於テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 法人ノ設立者又ハ法人ヨリ運輸通信大臣ニ差出ス願書又ハ届書特ニ指定スルモノヲ除ク外其ノ主タル事務所所在地ノ逓信局長事ヲ關スルモノニ在リテハ海運局長ヲ經由スヘシ

附 則

本令ハ大正二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

逓 信 省

裏面白紙

通總第三一一號

昭和二十年五月十五日

總務局長

總裁官房文書課長 殿

逓信院設置ニ伴フ省令等ノ改正ノ件

右ニ關シ當局關係(會計及官制關係ヲ除ク)ノモノ左記ノ通及送付候條可然御取計相煩度

記

- 一、內閣總理大臣ノ指定ニ係ル軍用資源秘密ノ保護ニ關スル件(案)
- 二、國家總動員法第四條ノ規定ニ基キ內閣所屬逓信官著ニ徵用セラレタルモノニ對スル給與等ニ關スル件(案)
- 三、逓信院監督工場規程(案)
- 四、許可認可等行政事務處理簡捷令施行規則(案)
- 五、運輸通信省通信事業關係許可認可等臨時措置令施行規則中改正ノ件(案)
- 六、逓信共濟組合規則中改正ノ件(案)
- 七、逓信共濟組合從業者特別規則中改正ノ件(案)

八 遞信院監督工場規程施行細則 (案)
九 遞信共濟組合事務規程外四公達中改正ノ件 (案)

裏面白紙

大日本帝國政府

附令第一號

逓信共済組合従事者特別規則中左ノ趣改正ス

昭和二十年 月 日 内閣總理大臣 鈴木 貞 太郎

第一條中「逓信通信部外」ヲ「逓信院、電氣試験所、逓信講習所、海軍電信講習所、逓信局及逓信官署外」ニ、「逓信、海運又ハ航空ニ關スル業務」ヲ「逓信ノ業務」ニ改ム

附 則

本令ハ昭和二十年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

逓信ノ業務ニ關スル事

裏面白紙

大日本帝國政府

勅令第 號

運輸通信省運信事業關係許可證時指值令施行規則中左ノ條改正ス

昭和二十年 月 日

内閣總理大臣 鈴木 實太郎

「運輸通信省運信事業關係許可證時指值令施行規則」ヲ「内閣運信事業關係許可證時指值令施行規則」ニ、「運輸通信大臣」ヲ「内閣總理大臣」ニ改ム

附 則

本令ハ昭和二十年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

Handwritten signature and initials in the left margin.

裏面白紙

大日本帝國政府

閣令第 號

許可認可等行政事務處理簡捷令施行規則左ノ通り定ム

昭和二十年

月 日

内閣總理大臣 鈴木 貫太郎

許可認可等行政事務處理簡捷令施行規則(案)

國家總動員法ニ基キ内閣總理大臣ノ爲ス許可、認可又ハ承認ニ關シ令第五條ノ規定ニ依リ證明ヲ受ケントスル者ハ同條第一項前段ノ證明ヲ受ケントスル場合ニ於テハ當該申請書又ハ同答書ヲ最初ニ受取リタル官廳ニ對シ同條第一項後段ノ證明ヲ受ケントスル場合ニ於テハ當該許可、認可又ハ承認ノ處分官廳ニ對シ文書ヲ以テ其ノ旨請求スベシ

申請書又ハ同答書提出ノ際當該申請書又ハ同答書ヲ受取リタルコトノ證明ヲ受ケントスル場合ニ限リ前項ノ規定ニ依ル請求ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

申請書又ハ同答書ニ添ヘ表面ニ宛先トシテ當該申請者又ハ同答者ノ住所及氏名ヲ、裏面ニ當該申請書又ハ同答書ノ日附、番號及題名ヲ記載シタル郵便葉書ヲ返信用トシテ提出シタルトキハ當該申請書又ハ同答書ヲ受取リタルコトノ證明ノ請求アリタルモノト察看做ス

第二項及前項ノ場合ヲ除クノ外第一項ノ請求ヲ爲サントスル者ハ返信用トシテ郵便葉書又ハ十錢ノ郵便切手ヲ當該請求書ニ添附スベシ

附 則

本令ハ昭和二十年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十七年一月十日逡信省令第四號許可認可等行政事務處理簡捷令施行規則ハ之ヲ廢止ス

裏面白紙

大日本帝國政府

通信官署現金受拂規則、郵便振替貯金規則、昭和十四年厚生省令第二十九號及同十七年同第三十一號ノ規定ニ依リ従前調製シタル用紙ハ當分ノ内其ノ儘之ヲ使用スルコトヲ得

裏面白紙

大日本帝國政府

通信院内閣府廣 = 併 = 現令中

改正 / 件

日

(總務司)

○通信講習所規則中左ノ通 改正又

第三條中 通信院總裁ヲ 通信院總裁 = 改々

第三條中 通信院總裁ヲ 通信院總裁 = 改々

通信講習所規則中左ノ通 改正又

第三條中 運輸通大匠ヲ 内閣總理大臣 = 改々

(國定規格 5 公 X 2 毫 捲)

裏面白紙

大日本帝國政府

第三條中「通信院總裁」ヲ「通信院總裁」ニ改メ

第五條中「通信院」ヲ「通信院」ニ改メ「運輸通信省」

海運總司、船舶試験所、高等商船學校、商船學校、

航海訓練所、海員養成所、海運司、船隻検査所

高等海員審判所、地方海員審判所、運輸通信省

航空司及航空機業員養成所ヲ削リ、第三條中

「通信、海運」又ハ「航空」ニ代テ「運輸」トシ、

(國定規格B5二六×三三)

裏面白紙

大日本帝國政府

二改 4

第十四條 運輸通信部内ヲ「運輸院、電氣試験所、通信審

判所、無線電信講習所、通信司及通信官舎」ニ改メ

第十四條ニ中「通信院總裁」ヲ「運輸院總裁」ニ改メ

第十四條中「運輸通信大臣」ヲ「内閣總理大臣」ニ改メ

第十四條中「運輸通信部内」ヲ「運輸院ニ、運輸通信大臣

ヲ「内閣總理大臣」ニ改メ

(國定規格B5(18×25)毫米)

裏面白紙

大日本帝國政府

第百十條中「運輸總長」部内「運輸總長」

大臣ヲ「内閣總理大臣」改メ

第百十條中「運輸總長」部内「運輸總長」

大臣ヲ「内閣總理大臣」改メ

第百十條中「運輸總長」部内「運輸總長」

總裁ヲ「運輸總長」改メ

(國定規格B5(三×二)巻紙)

裏面白紙

大日本帝國政府

第十八條 運輸通信大臣の職權

運輸通信大臣は、運輸通信行政の全般に關し、

第一條中運輸通信部外に、運輸、航空、

運輸、航空、無線電、郵便、運輸、

外に、運輸、海運、航空、郵便、運輸、

72
4

裏面白紙

(國定規格5-23-55)

大日本帝國政府

外國郵便規則	電報規則	新聞電報認可規則	寫真電報規則	氣象通知電報規則	同業電信規則	慶幸電報規則	私設電信規則	明治三十三年通信省令第九號	私設電信私設無線電信公衆通信取扱規則	無線電報規則	航空無線電報規則	同業無線電報規則
通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁
通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁
通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁

(國定規格 5-12-13 準拠)

裏面白紙

大日本帝國政府

防室通信規則	昭和十六年通信省令第七十一號	電話規則	後約新聞電話規則	市内專用電話規則	鑛業特設電話規則	大正十五年通信省令第十一號	外地電話通信規則	外國電報規則	外國無線電報規則	國際放送電報規則	陸軍電信電話規則	國際電話通信規則
通信院總裁通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁	通信院總裁

附則
本令公布之日より之ヲ施行ス

(國定規格5-22×25)

裏面白紙

通業度第七号

昭和二十六年五月九日

業務局長

總裁官房文書課長殿

通信院設置に伴う省令の改正に関する件

右閣令案別紙の通り、通業有也

追記(一) 現行運輸通信省軍用資料秘密保護規則の改正(一)
通信関係部分(削除)と同時に公布方針相成度、別紙(二)の
内容の通り閣令十年天(ト)と立出セル天(一)有也、省令



裏面白紙

別紙
(一)

景
送
付
通

裏
面
白
紙

閣令第 號

内閣總理大臣ノ指定ニ係ル軍用資源秘密ノ保護ニ関スル件左ノ通定ム

昭和二十年 月 日

内閣總理大臣 名

内閣總理大臣ノ指定ニ係ル軍用資源秘密ノ保護ニ関スル件

第一條 本令ハ軍用資源秘密保護法(以下法ト稱ス)第二條ノ規定ニ依リ内閣總理大臣ノ指定ニ係ル軍用資源秘密ノ保護ニ関スル事項ヲ規定スルモノトス

第二條 法第二條本文ノ規定ニ依リ軍用資源秘密ヲ列表ノ如ク指定ス

第三條 内閣總理大臣法第二條第十五號ニ該當スル軍用資源秘密ニ屬スル設備ヲ秘匿スル爲必要アリト認ムルトキハ當該設備ヲ所管スル逓信局長、逓信管理部長又ハ當該設備ノ管理者若クハ之ニ準ズル者(以下管理者ト稱ス)ヨリテ遮蔽其ノ他秘匿ニ必要ナル措置ヲ爲サシム

第四條 前條ノ規定ニ依リ秘匿ノ措置ヲ爲ス當該設備ノ場所ハ附圖ニ定ムル標識ヲ設置ス

第五條 附圖ニ定ムル標識ヲ設置シタル設備場所ニ付テハ法第六條ノ規定ニ依リ之ニ立入又ハ測量、撮影、模寫、模造若ハ竊取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ爲スコトヲ得ズ但シ内閣總理大臣ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 前條ニ規定スル行為ノ許可ヲ受ケントスル者ハ別記第一様式ノ許可願書(三通)ヲ内閣總理大臣ニ提出スベシ

第七條 軍用資源秘密保護法施行令(以下令ト稱ス)第十二條ノ規定ニ依リ内閣總理大臣所管ノ官廳以外ノ官廳ニ於テ第五條ノ規定スル行為ノ承認ヲ受ケントスルトキハ別記第一様式ノ許可願書ニ準ズル承認申請書(三通)ヲ内閣總理大臣ニ提出スベシ

第八條 法第二條第十二號及第十三號ニ該當スル軍用資源秘密ヲ外國、外國ノ爲ニ行動スル者若ハ外國人ニ開示シ、交付シ若ハ公ニシ又ハ法第二條第十五號ニ該當スル軍用資源秘密ヲ他人ニ開示シ、交付シ若ハ公ニスルトノ許可ヲ受ケントスル者ハ別記第二様式ノ許可願書(三通)ヲ内閣總理大臣ニ提出スベシ

第九條 令第十八條第一項ノ規定ニ依リ内閣總理大臣所管ノ官廳以外ノ官廳ニ於テ軍用資源秘密ヲ開示シ、交付シ又ハ公ニスルトノ承認ヲ受ケントスルトキハ別記第二様式ノ許可願書ニ準ズル承認申請書(三通)ヲ内閣總理大臣ニ提出スベシ

第十條 軍用資源秘密ヲ開示シ、交付シ又ハ公ニスルトノ承認ヲ受ケントスルトキハ別記第二様式ノ許可願書ニ準ズル承認申請書(三通)ヲ内閣總理大臣ニ提出スベシ

第十條 内閣總理大臣第六條乃至前條ノ規定ニ依ル許可若ハ承認ヲ爲シ又ハ條件ヲ附シテ許可若ハ承認ヲ爲シタルトキハ許可證又ハ承認證ヲ交付ス

第十一條 許可證又ハ承認證ハ第五條ニ規定スル行為ヲ爲ス者必ズ之ヲ携帯シ何時ニテモ當該設備ノ看守者、憲兵又ハ警察官吏ノ要求ニ應ジ閲覧ニ供スベシ

第十二條 第五條ニ規定スル行為、許可證又ハ承認證ヲ失ヒタル者ハ其ノ事由ヲ具シ當該設備ノ管理者ヲ經テ内閣總理大臣ニ遲滞ナク届出デ必要ニ應ジ再下附ヲ申請スベシ此ノ場合ニ於テ未ダ再下附ヲ受ケタルトキト雖モ當該設備ノ管理者ノ承認ヲ受ケタルトキハ當該行為ヲ繼續スルコトヲ得

第十三條 許可證ヲ所持スベキ者第十二條ノ規定ニ依ル閲覧ヲ拒ミタルトキハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第十四條 第五條ニ規定スル標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ無效ナラシメタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

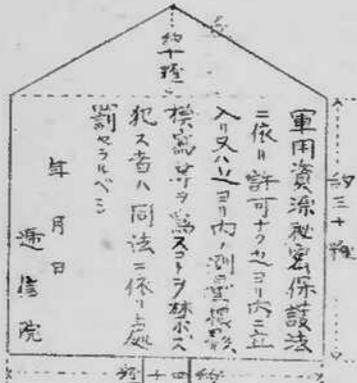
附 則
本令ハ昭和二十年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

別表

一 昭和十三年一月以降ニ於ケル都廳府縣、防衛總司令部、軍管區司令部、師管區司令部、鎮守府、警備府所在地相互間ヲ連絡スル電信、電話、無線電信又ハ無線電話各別、回線總數及同上區間ニ於ケル電氣通信ノ疏通能力竝ニ此等ヲ表示スル記録圖表

二 昭和十三年一月以降ニ於ケル内地ト朝鮮、台灣、關東州、滿洲國又ハ中華民國トヲ連絡スル電信、電話、無線電信又ハ無線電話各別、回線總數及同上區間ニ於ケル電氣通信ノ疏通能力竝ニ此等ヲ表示スル記録圖表

附 圖



材 料
強靱ナル木又ハ金屬ノ類
地 色 赤 色
文 字 白 色

別記
第一様式

立入(測量、模寫、複製)許可願

本籍(外國人ニ在ル者)

職位

氏名

昭和 年 月 日

内閣總理大臣 殿

左記、通立入(測量、模寫、複製)致度ニ付許可相成度候也

一 目的

二 設備、所在地及名称

三 区域(圖書物件)

四 日時(期間)

五 方法

六 使用器具類、名称

七 作業者、住所、氏名及年齢

八 作業場所

九 成果物、員数及其用途

十 備考(参考事項)

注意

- 一 同紙 日本標準規格B列四番
- 二 行為、種別 必要ナル行為、ミテ記載スルモノトス
- 三 目的 工場、建造物、爲等ト記載スルモノトス
- 四 設備、所在地及名称 何縣何郡何村何番地何電信局等ト記載スルモノトス
- 五 区域(圖書物件) 区域ハ何局内、何設備ノ全部又ハ何部分等ヲ、圖書物件ハ複製、模寫、複製等ヲ爲スベキ圖書物件、名称ヲ記載スルモノトス
- 六 日時(期間) 何年何月何日何時又ハ何年何月何日ヨリ何年何月何日迄等ト記載スルモノトス
- 七 方法 平面測量、油繪等、記載スルモノトス
- 八 使用器具類、名称 何測量器、何寫真機等ト記載スルモノトス
- 九 作業者、住所、氏名及年齢 現ニ作業ニ従事スル者、住所、氏名及年齢ヲ記載スルモノトス
- 十 作業場所 何縣何郡何村何番地等、測量圖、作成、寫真、複製、現像、現付等ヲ行フ場所ヲ記載スルモノトス
- 十一 成果物、員数及其用途 測量、複製、寫真原畫、複製圖書等何部何枚及工場建造物、爲等ト記載スルモノトス

第二様式

軍用資源秘匿開示(及附公ニ)許可願

本籍
住所
職業

氏

年 齡
印

昭和 年 月 日

内閣總理大臣殿

左記ノ通軍用資源秘匿ヲ開示(又付、公ニ)致度ニ付許可相成度候也

一 目的

二 事項(圖書物件)

三 圖書物件ノ異名

四 日時

五 方法

六 相手方ノ住所、職業及氏名

七 其ノ他參考トナルキ事項

注意

一 用紙 日本標準規格B列四番

二 行為ノ種別 必要ナル行為ノミヲ記載スルモノトス

三 目的 何學會何協會等ニ於ケル講演等ト記載スルモノトス

四 方法 何某ノ開覽ニ依ス、何某ニ對シ郵便ニテ送付等ト記載スルモノトス

五 相手方ノ住所、職業及氏名 相手方ノ住所(外國人ニ在リテハ國籍天)、職業及氏名(法人其ノ地、團體ニ在リテハ代表者ノ住所、氏名及其ノ員數、團體中ニ外國人ヲトシテハ其ノ國籍、住所、職業及氏名)ヲ記載スルモノトス

大日本帝國政府

別紙(三) 閣令案

閣令案 附

昭和十年閣令第二號中左ノ通改正ス

昭和二十年 月 日

内閣總理大臣 名

第五條及第六條中「地方長官」ヲ「地方長官通信ニ關スルモノニ在リテハ通信局長又ハ通信管理部長」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参考〕 昭和十年閣令第二號ハ内閣ノ主管ニ屬スル法人ノ設立及監督ニ關スル件ナリ

(國定規格B5(1)×257)

裏面白紙

大日本帝國政府

通信院給費生規則

(明治四十三省令第一五九號)

通信院設置ニ伴フ省令改正案(三件)

二條目 (三、五、七) (國定規格時) X三卷

1. 通信院ヲ通信院ニ改ムルコト。

(題名第一條、第二條、第十一條、第十四條書式、第三號書式)

2. 通信院總裁ヲ通信院總裁ニ改ムルコト。

(第三條、第六條、第七條、第八條書式、第九號書式、第十四號書式)

3. 通信部外ヲ通信部外ニ改ムルコト。

(第十一條)

4. 通信部内ヲ通信部内ニ改ムルコト。

(第三號書式)

裏面白紙

大日本帝國政府

昭和十六年三月五日 逓信省令 第三四號 (支那事變) 為召集又ハ
徵用セラレタル者、電氣通信技術者資格、試験檢定、受験特例
ニ關スル件)

運輸通作大臣ヲ 内閣總理大臣
逓信總裁ニ改ムル事
(オニ案 別記様式)

(國定規格B5(16×22) 縦紙)

裏面白紙

通監一第 二六 卷

明治貳拾年 五月四 日

恩裁官房文書課長殿

通監監督局第一課長

逕信院設置ニ伴フ法令改正ニ関スル件
右ニ関シ貴局関係ノ省令及告示中、改正ヲ要スル箇所ハ
左記ノ通ニ付可然取計相煩交

一省令

昭和十六年十二月十七日逕行省令中百七号臨時郵便取締令
第一條ノ命令ニ関スル件

又昭和十六年十月四日逕行省令九十一号、臨時郵便
取締令第一條ノ命令ニ関スル件、又同條中「運輸大臣」ヲ

夫之「運行改總裁」之改々

昭和十六年四月十日「運行省令」第四十二号小包郵便物之因スル
管轄措置ニ因スル件 並

昭和十九年五月五日運輸通行省令第六十七号臨時配付電話
取付規則 第三條、第五條、第十二條、第十四條及
第十九條中「運行改總裁」ヲ夫々「通信改總裁」ニ
改々

二、告示

昭和十六年七月二十日「運行省令」第四十六号三丁六丁中
「通信改總裁」ヲ「運行改總裁」ニ改々

三、告示

公達以下一般改正公達ニ依リ其ノ五ノ十一



本館に属する印刷文書ハ公文書
類ノ別表及目録ニ載セズ

昭和廿年五月六日

野金保除局

總裁官房文書課中

逓信院設置に伴う指令改正の案を打合事項

右ノ内省令中改正二十二件別紙ノ通及送付候

（官製用紙） 十八・四 表紙用紙

裏面白紙

官制改正ニ伴フ關係省令中改正ノ件

一、簡易生命保險規則

通信院貯金保險局長

通信院貯金保險局長 ✓

二、簡易生命保險團體特別取扱規則

通信院貯金保險局長

通信院貯金保險局長 ✓

三、郵便年金規則

通信院貯金保險局長

通信院貯金保險局長 ✓

四、團體郵便年金規則

通信院貯金保險局長

通信院貯金保險局長 ✓

五、簡易生命保險審査會規程施行細則

通信院貯金保險局長

通信院貯金保險局長 ✓

昭和十八年六月三十日 逓信省令第一號

昭和十九年運輸通信省令第六十一號

通信院貯金保險局長

通信院貯金保險局長 ✓

X

昭和十八年六月三十日 逓信省令第一號

昭和十九年運輸通信省令第六十一號

通信院貯金保險局長

通信院貯金保險局長 ✓

一八郵便振替貯金ニ依ル債券募集、元利則	一七府縣稅納入郵便振替貯金特別取扱規則	一六集金郵便振替貯金拂込規則	一五市公金受拂ノ爲ニスル郵便振替金特別取扱規則	一四郵便振替貯金規則	一三郵便爲替規則	一二郵便貯金切手規則	一一郵便貯金規則
	通信院總裁	通信院	通信院總裁	通信院	通信院總裁	通信院貯金保險局	運輸通信大臣
通信院總裁	通信院總裁	通信院	通信院總裁	通信院	通信院總裁	通信院貯金保險局	内閣總理大臣
✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓

八昭和十九年運輸通信省令第一百十二號	九昭和十九年運輸通信省令第一百三十三號	附則	附則	一〇簡易生命保險及郵便年金積立金儲蓄規則
通信院貯金保險局長	通信院貯金保險局長			運輸通信大臣
通信院貯金保險局長	通信院貯金保險局長			内閣總理大臣
通信院貯金保險局長	通信院貯金保險局長			通信院貯金保險局
通信院貯金保險局長	通信院貯金保險局長			通信院貯金保險局
✓	✓			✓

金支拂或貸付事務特別取扱規則	通信院貯金保険局長	逓信院貯金保険局長
一九昭和十三年逓信省令第十三號	通信院總裁	逓信院總裁 ✓
二〇、國債募集、賣出、買上及元利金支拂 郵便振替貯金特別取扱規則	通信院總裁	逓信院總裁 ✓
二一、郵便官署手形交換所參加規則	通信院總裁	逓信院總裁 ✓
二二、郵便官署ニ於ケル各廳歳入金及歳出 金取扱規則	通信院貯金保険局長	逓信院貯金保険局長 ✓
二三、昭和十八年逓信省告示第一一六號	通信院總裁	逓信院總裁
二四、昭和十五年逓信省告示第七百六十一號	通信院總裁	逓信院總裁
二五、昭和十九年逓信院告示第九十四號	通信院總裁	逓信院總裁



通波監第四三八號

昭和二十年五月五日

電 波 局 長

總裁官房文書課長 殿

遞信院設置ニ伴フ法令改正案送付ノ件
當局關係省令中改正ヲ要スルモノ別紙ノ通ニ付可成取計相成度

裏面白紙

裏面白紙

△印字のト有る
電波局關係法令改正案
一左表上欄ニ掲グル遞信省令中中欄ノ字句ヲ下欄ノ通改ム
(1)ニ該當ノモ

△私設電信私設無線電報公衆通信取扱規則 (大正十四年十月省令第五十三號)	通信院總務局 遞信院業務局
△無線電報規則 (大正十四年八月省令第五十一號)	通信院總裁 遞信院總裁
△航空無線電報規則 (昭和十五年八月省令第四十四號)	通信院總裁 遞信院總裁
△私設無線電報電話規則 (昭和八年十二月省令第六十號)	通信院總裁 遞信院總裁
△官廳用無線電報電話規則 (大正五年十一月省令第一百七號)	通信院總裁 遞信院總裁
△無線通信機器取扱規則 (昭和十四年十一月省令第五十一號)	通信院總裁 遞信院總裁

裏面白紙

無線電報規則
(昭和十五年四月省令第十四號)

放送用私設無線電話規則
(大正十二年十二月省令第五十八號)

(四)ニ該當ノモノニテ参照)

無線通信士資格檢定規則
(昭和六年四月省令第八號)
(昭和十八年六月省令第七十六號)

運輸通信大臣
通信院總裁

内閣總務大臣
通信院總裁

運輸通信大臣
通信院

遞信院總裁
遞信院

通信省

裏面白紙

三 無線通信士資格檢定規則修正案
 無線通信士資格檢定規則中左ノ通改正ス

(一) 第一條第一項、第四條第一項及第二項、第五條、第七條第一項但書、第八條、第十一條第一項及第二項、第十三條第二項、附則第二號樣式、同第四號樣式及同第五號樣式中「運輸通信大臣」ヲ「逓信院總裁」ニ改ム

(二) 第四條第一項、附則第一號樣式甲及同第一號樣式乙中「逓信院」ヲ「逓信院」ニ改ム

昭和二十五年五月十日

總務部房又書課又書係長殿

委員改訂新法研課

電氣試験所

右列紙、再り改正不可然、脚取計冊成度

↑
エワクニ線量計検査規則中改正、件

裏面白紙

裏面白紙

電氣試験所

「エツクス」線量計検定規則中改正ノ件

電氣試験所

第四條 検定ヲ行ヒタル線量計左ノ各條ニ該當スルトキハ之ヲ合格トス

一 標準電流太極ノ承認シタル型式ニ適合スルモノ

一 標準電流太極ノ告示スル試験ニ關スル條件ニ適合スルモノ

第六條 標準電流太極ハ製品ノ實績ニ因リ必要アリト認めタルトキハ其

ノ型式承認ヲ取消スコトアルベシ

第七條 標準電流太極型式承認ヲ爲シ又ハ其ノ取消ヲ爲シタルトキハ之

ヲ告示ス

第五號電式申渡檢測儀省ヲ檢測器ニ改ム

告

示(各為提書資料)

裏面白紙

裏面白紙

告示案

内閣告示第

號

昭和十八年三月内閣告示第一號左ノ通改正ス

昭和 年 月 日

内閣總理大臣 鈴木貫太郎

部局名	内閣官房
各職職員優遇令第五條第三項ノ規定ニ依ル稱號	内閣主事
各職職員優遇令第九條第四項ノ規定ニ依ル稱號	
各職職員優遇令第十條第二項ノ規定ニ依ル稱號	内閣業務手

内閣總理大臣秘書官及内閣官制第十條ノ職務大臣ニ附屬スル職員ヲ含ム

給局

遞信省

遞信省

其ノ他ノ郵局	通信官署	統計局
(子部局名) 冠ス)主事	通信主事	
(子部局名) 冠ス)主事補	通信主事補	
(子部局名) 冠ス)業務手	通信業務手	

日本標準規格 B541

裏面白紙

内閣事務録

逓信部内各廳ノ執務時間ヲ當分ノ間左ノ通

年 月 日

内閣總理大臣 氏 名

一、逓信部内各廳（東京都所在ノモノヲ除ク）ノ執務時間

四月 一日ヨリ 十月三十一日迄

午前八時ヨリ午後五時迄

十一月 一日ヨリ 三月三十一日迄

午前八時三十分ヨリ午後四時三十分迄

二、東京都内所在逓信部内各廳ノ執務時間

四月 一日ヨリ 十月三十一日迄

午前八時三十分ヨリ午後五時三十分迄

十一月 一日ヨリ 三月三十一日迄

午前八時三十分ヨリ午後四時三十分迄

内閣事務録

裏面白紙

金貨付證書金第二十中「逕信省」ヲ「逕信院」ニ
 又金契約申込書金第一、年金併合支拂請求
 書金第十、年金支拂請求書金第二、年金契
 約變更請求書金第十五、特別返還金支拂請求
 書金第二、年金支拂請求書金第十八、及再度交
 付請求書金第十一號中「簡易保險局使用欄」ヲ
 「逕信院貯金保險局使用欄」ニ改ム
 郵便局使用欄及用紙記入欄中左ノ如ク改ム
 掛金領收帳簿第三號甲表面中「逕信省」ヲ
 逕信院ニ又同表面中「簡易保險局長」ヲ「逕
 信院貯金保險局長」ニ改メ郵便年金證書
 裏面中添「印及欄外」注意ヲ削ル
 附則
 本公達ハ本日ヨリ之ヲ施行ス
 従前調製ニ係ル帳簿及用紙ニシテ本公達ニ依リ
 改正セラレタルモノハ當分ノ内其ノ儘又ハ修補
 ノ上之ヲ使用スルコトヲ得

内閣

○内閣告示第二十三號
 行政機構整備臨時職員令ニ依ル指定左ノ通定ム
 昭和十八年十一月一日
 内閣總理大臣 東條 英機
 第一條 行政機構整備臨時職員令ニ依ル指定
 ノ規定ニ依ル指定左ノ如シ
 一 明治三十八年勅令第四十三號(戰時又ハ
 事變ニ際シ臨時特設ノ部局又ハ陸海軍ノ部
 隊ニ附屬セシメタル 文官補闕ノ件)ノ適用
 ヲ受クル文官
 二 昭和十八年勅令第三十九號(大東亞戰
 争ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタル文官等ノ
 補缺及復歸ニ關スル件)(第二項ノ規定ヲ除
 ク)ノ適用ヲ受クル文官
 第二條 行政機構整備臨時職員令第一條第三項
 ノ規定ニ依ル指定左ノ如シ
 一 農林部内職員ニ付テハ農商大臣
 二 商工部内職員ニ付テハ軍需大臣

三 逕信及鐵道部内ノ職員ニ付テハ運輸通信
 大臣
 第三條 行政機構整備臨時職員令第五條ノ規定
 ニ依ル指定左ノ如シ
 一 農林、商工、逕信及鐵道各大臣
 二 裁判所書記

官報
20年10月24日
第563号

官報
20年10月26日
第44号

閣令第五十號

逓信勸勞功章令施行規則左ノ通定ム

昭和二十年十月二十九日

案ノ二

内閣總理大臣 署名

逓信勸勞功章令施行規則

第一條 勸勞功章令第一條ノ規定ニ依リ勸勞功章ヲ授與ヒラル
ベキモノハ第九條ノ規定ニ依リ勸勞章ヲ授與ヒラレタルモノノ中
ヨリ之ヲ檢衡スルモノトス但シ特別ノ事情アルトキハ勸勞章ヲ授

逓信省

日本標準規格JIS

裏面白紙

與ヒラレザルモノニ付テモ之ヲ銜衡スルコトアルベシ

第二條 勲勞顯功章タル徽章ヲ授與ヒラルベキ者ニハ表彰狀ヲ附與スルモノトス

表彰狀ノ様式附圖ノ如シ

第三條 勲勞顯功章タル徽章ヲ授與ヒラルベキ者ニハ其ノ授與前死亡シタルトキト雖モ仍之ヲ授與ス

第四條 勲勞顯功章ヲ授與ヒラレタルモノ受章者タルノ面目ヲ毀損スルニ至リタルトキハ之ヲ返納ヒシムルコトアルベシ

第五條 勲勞顯功章ヲ授與ヒラレタルモノ之ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ内閣總理大臣ハ願出ニ依リ之ヲ再下附スルコトアルベシ

裏面白紙

遞信省

3

前項ノ規定ニ依リ勲勞勲功章ノ再下附アリタル或亡失ノ勲勞勲功章ヲ發見シタルトキハ速ニ内閣總理大臣ニ其ノ一ヲ返納スベシ

第六條 勲勞勲功章タル勲章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用シ遺族之ヲ保存スルコトヲ得

第七條 勲勞勲功章ヲ授與シタルトキ又ハ第四條ノ規定ニ依リ之ヲ返納セシメタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ公示ス

第八條 勲勞勲功章タル勲章ハ式典其ノ他ノ際アル場合ニ之ヲ佩用スルモノトス

第九條 勲勞章ハ勲勞勲功章令第六條第三項及第七條ノ規定ニ依リ内閣總理大臣ヲ主務大臣トスル勲勞者又ハ其ノ團體ニシテ平素其

裏面白紙

遞信省

4

ノ職務ニ精勵シ勲勞報國ノ實ヲ證ゲ他ノ模範タルモノニ之ヲ授與スルモノトス

勲勞章ハ前項ニ掲グルモノニシテ危難ヲ瀕ミズ其ノ職務ヲ盡シ其ノ行爲他ノ模範タルモノニモ之ヲ授與スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ勲勞章ヲ授與スル者及其ノ所管ハ別表ニ依ル
第十條 勲勞章ハ徽章及賞狀ノ二種トシ之ヲ受クベキモノ勲勞者ナルトキハ之ニ對シ徽章ヲ、剛體ナルトキハ之ニ對シ賞狀ヲ授與スルモノトス

前項ニ規定スル徽章ノ形狀及制式並ニ賞狀ノ様式附圖ノ如シ

第十一條 勲勞章タル徽章ハ之ヲ右肋ニ佩ブルモノトス

裏面白紙

逓信省

第十二條 第二條乃至第六條及第八條ノ規定ハ勸勞章ニ之ヲ準用ス
 但シ第五條又ハ附圖第二條ノ表彰狀ノ様式中内閣總理大臣トアル
 ハ勸勞章ヲ授與スル者トシ勸勞功章トアルハ勸勞章トス
 第十三條 勸勞功章及勸勞章ヲ授與スル場合ニハ賞品又ハ賞金ヲ
 添フルコトアルベシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和三十二年五月十九日

運輸通信省勸勞功章令施行規則ノ規定ニ依リ通信院、電氣試験所、
 遞信講習所、無線電信講習所、遞信局及通信官署ノ勸勞者又ハ其ノ
 團體、通信事業ノ經營者又ハ其ノ團體若ハ經營者ト他ノ勸勞者トノ

裏面白紙

遞信省

6.

團體ニ授與シタル勲勞功章若ハ勲勞章ハ之ヲ本令ニ依リ授與シタルモノト看做ス

遞
信
省

日本標準規格B-1

裏
面
白
紙

145

(附圖)

第二條ノ表彰狀ノ様式(用紙厚紙日本標準規格第九二號A列三番) 甲號(勳勞勳功章令第一條第一項ノ規定ニ依ルキ)

右ハ平素其ノ職務ニ精勵シ勳勞	氏名
報國ノ實ヲ舉ゲ他ノ模範ト爲ス	
ニ足ル仍テ茲ニ勳勞勳功章ヲ授	
與シテ之ヲ表彰ス	
年 月 日	
内閣總理大臣位勳爵 氏名 國	

裏面白紙

遞信省

8

乙號（勳勞勲功章令第一條第二項ノ規定ニ依ルモノ）

表彰狀

氏名

右ハ自己ノ危難ヲ顧ミズ其ノ職
實ヲ盡シ其ノ行爲他ノ模範ト爲
スニ足ル仍テ茲ニ勳勞勲功章ヲ
授與シテ之ヲ表彰ス

年月日

内閣總理大臣位勳爵 氏名

裏面白紙

遞信省

日本郵政省印

147

側 面	裏 面	表 面		大 サ	地 質	勳 章 ノ 徽 章 ノ 制 式
		玉 ノ 部	神 像 ノ 部			
銀 色 磨 仕 上	銀 色 梨 地 仕 上	曲 玉 ノ 銅 色 磨 仕 上	丸 玉 ノ 銅 色 磨 仕 上	浮 彫 銀 色	上 圖 ノ 通	銀 色 金 屬

徴

裏
面
白
紙

遞
信
省

日本標準規格B-11

裏面白紙

(附圖)

第十條ノ賞狀ノ様式(用紙厚紙日本標準規格第九二號B列三番) 甲號(第九條第一項ノ規定ニ依ルモノ)

勳	勞	賞	狀	圖	樣	名
右	ハ	平	素	協	心	戮
力	其	ノ	職	務	ニ	精
勵	シ	勲	勞	報	國	ノ
實	ヲ	堪	ゲ	他	ノ	模
範	ト	爲	ス	ニ	足	ル
仍	テ	茲	ニ	述	信	勳
勞	勳	功	章	令	施	行
規	定	ニ	依	リ	表	彰
ス						
年	月	日				
第	九	條	第	三	項	ノ
勳	勞	章	ヲ	授	ス	ル
官	職	名				
位	勳	爵				
氏						
名						
圖						

遞信省

日本標準規格B列

乙號（第九條第二項ノ規定ニ依ルモノ）

勳 勞 賞 狀	圖 章 名	右ハ危難ヲ顧ミズ協心戮力其ノ 職責ヲ盡シ其ノ行為他ノ模範ト 爲スニ足ル仍テ茲ニ選信勳勞 功章令施行規則第九條第二項ノ 規定ニ依リ表彰ス	年 月 日	第九條第三項ノ 勳勞章ヲ授與ス ル者ノ官職名	位勳勞 氏 名團
------------------	-------------	---	-------------	------------------------------	----------------

裏面白紙

遞
信
省

135

(別表)

勸業ノ授 與スル者	<p>逓信院 總裁</p> <p>逓信局 長</p>
所管ノ區分	<p>1. 逓信院、電氣試験所、逓信講習所及無線電信講習所ノ勸業者又ハ其ノ團體</p> <p>2. 通信ニ關スル民間事業ノ經營者若ハ其ノ團體又ハ經營者ト他ノ勸業者トノ團體</p> <p>1. 逓信局勸業者又ハ其ノ團體</p> <p>2. 通信官署ノ勸業者又ハ其ノ團體</p>

裏面白紙

逓信省

日本標準規格B5-99

官更任用叙級令制定に
伴う常院関係規定類
改正の件

裏面白紙

三月一日

21年3月29日
通文第49

細務

不花

大官

譯文

傳長文

官

官報掲載
4月1日
21年4月1日
第1号

公報掲載
4月1日
21年4月1日
第1号

官吏任用教級令制定ニ伴フ常院関係規定類ノ改正方左

案ノ通夫ト公布ノコト、致可然致

閣議甲 一一六

通信省

露光量違いにより重複撮影

附令案

附令第二十五号

郵便規則等中左ノ通改正ニ

昭和二十一年四月一日

總理大臣

左ニ掲分ニ通信省令中ノ通信官署官制第十

七條第一項但書レヲ通信官署官制第十條

ニ改ム

郵便規則

電報規則

氣象通知電報規則

明治三十三年逓信者令第四十九號

受話規則

外國電報規則

國際電話通話規則

附則

本令「昭和二十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

逓信省

附則

附則

逓信院承補、逓信局書記補及通信書記補試験規則

明治二十九年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

附則

本令「昭和二十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

昭和二十一年四月一日

總理大臣

告示案

此告示案十條

逓信院官制第九條ノ四ノ規定ニ依リ東京府ニ逓
信院海底線工事事務所ヲ置キ海底線ノ布設及
保存工事ヲ掌ラシム

昭和三十年四月一日

總理大臣

告示案

件附告示案十一号

昭和二十年四月一日告示案三十一号等中左ノ通改正

昭和二十年四月一日告示案三十一号等中左ノ通改正

昭和二十年四月一日 總理大臣

第一条 左ノ掲グル内閣告示中「第九條ノ三」ヲ

「第九條ノ四」ニ改メ

昭和二十年四月一日告示案三十一号

昭和二十一年四月告示第九号

昭和二十一年四月告示第九号

第一条 昭和十八年十一月通信院告示第九号中「第九号」

二十九号第一項「第九号」を「第九号」に改す

通信院官制

通信院官制

通信院告示案

通信院告示第九号

昭和二十一年四月告示第九号

昭和二十一年四月告示第九号

第一条 昭和二十一年四月通信院告示第九号中「第九号」

電氣試験所官制 電氣試験所官制

第二条 昭和二十一年四月通信院告示第九号中「第九号」

無線電信講習所官制 無線電信講習所官制

第三條

昭和十八年十一月

通信院告示第三號中「附註」

通信官署官制

ヲ「第三條」ニ改ム

通信官署官制

第四條

左ノ掲グル

通信院告示及通信省告示中

「通信官署官制」第十六條第一項但書「ヲ」通信官

署官制第十條第一項但書「ニ」改ム

昭和二十年九月 通信院告示第百三十三號

昭和十六年八月 通信省告示第百九號

昭和五年八月 通信省告示第百十九號

昭和十五年四月 通信省告示第百七十二號

昭和十六年四月 通信省告示第百四十七號

通信省

公達案

公達 第四百一十一號

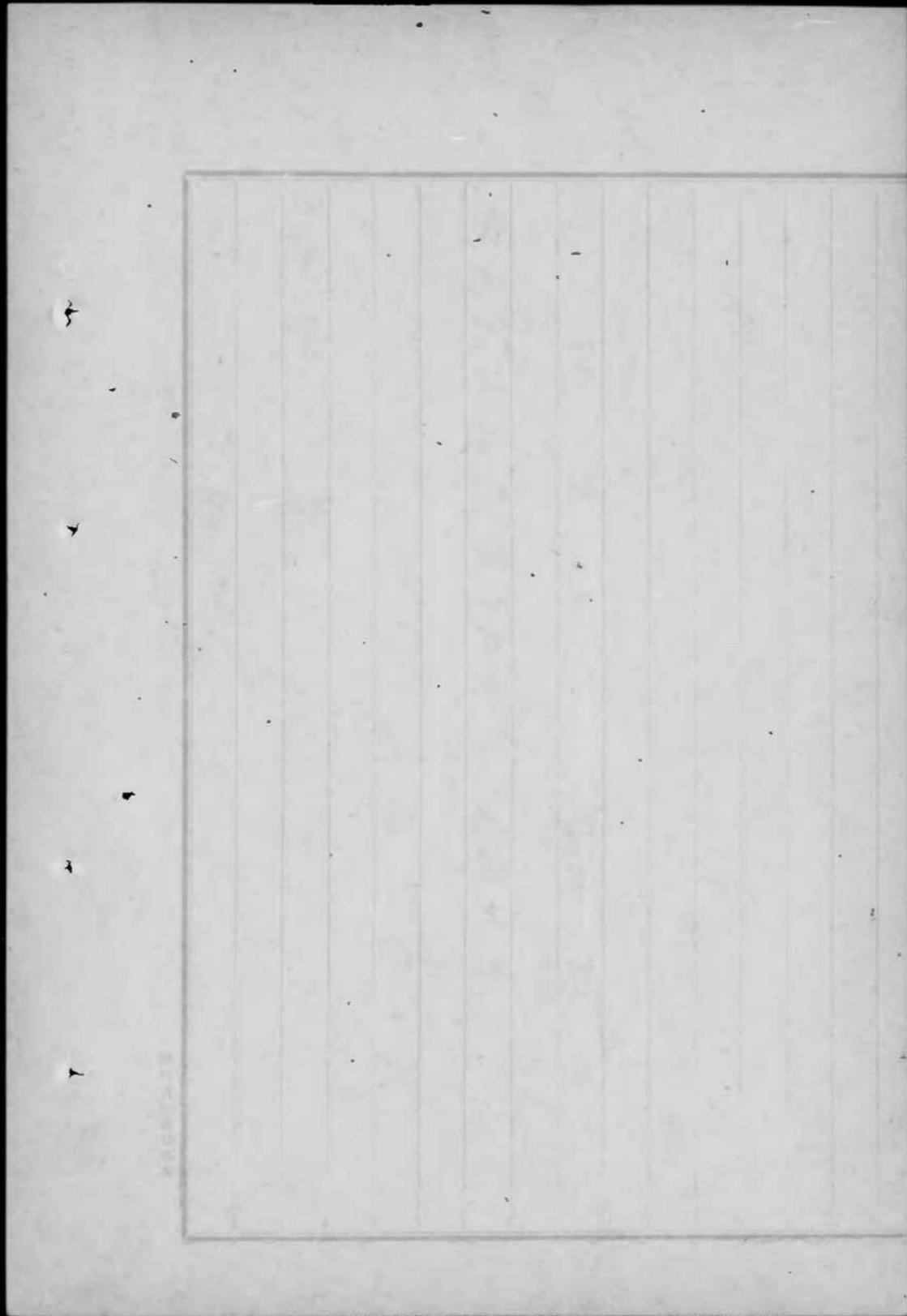
通信部内一紙

通信院分派規程等中改正

昭和四年四月一日

總裁 名

通信院總裁 松前重義



119

第二條中「奏任教官」ヲ「遞信教官」ニ改ム

第三條中「及技術科長ハ奏任教官ノ中ヨリ、生徒科長ハ訓育官」ヲ「、技術科長及生徒科長ハ遞信教官」ニ改メ「及兵籍」ヲ削ル

第四條及第六條中「教官」ヲ「遞信教官」ニ改ム

第八條中「奏任教官」ヲ「遞信教官」ニ改ム

第四條 遞信局長職務章程中左ノ通改正ス

第二條第一號中「高等官」ヲ「二級官吏」ニ改ム

第五條 通信官署各局長職務章程中左ノ通改正ス

第一條中「在外電信局長ニ在リテハ遞信院總裁ニ其ノ地ノ局長ニ在リテハ」ヲ削ル

第二條中「（在外電信局ヲ除ク）」ヲ削ル

第三條ヲ削リ第二條ノ三ヲ第三條トス

第六條 遞信手規程中左ノ通改正ス

第四條第二項中「判任官俸給令第十三條」ヲ「官吏俸給令第八條」ニ、「判任官」ヲ「官吏」ニ改ム

裏面白紙

第五條中「文官分限令中判任官」ヲ「官吏分限令中三級官吏」ニ改ム

第七條 遞信手試験規程中左ノ通改正ス

第五條第三項中「高等官又ハ判任官」ヲ「二級又ハ三級ノ官吏」ニ改ム

第八條 通信手規程中左ノ通改正ス

第二條中「第十六條」ヲ「第十條」ニ改ム

第三條第三項中「高等官又ハ判任官」ヲ「二級又ハ三級ノ官吏」ニ改ム

第四條第二項中「判任官俸給令第十三條」ヲ「官吏俸給令第八條」ニ改ム

第五條中「文官分限令中判任官」ヲ「官吏分限令中三級官吏」ニ改ム

第九條 昭和十八年十月十日公達第八百號從前ノ公達中通信手又ハ遞信手ニ關スル規定ハ各應職員優遇令ノ規定ニ依リ判任文官ト爲リタル通信

裏面白紙

21

手又ハ遞信手ニ適用又ハ準用ノ件中左ノ通改正ス
「判任文官」ヲ「三級官吏」ニ、「判任官待遇」ヲ「三級官待遇」
ニ、「判任官」ヲ「三級官」ニ改ム

附・則

本公達ハ昭和二十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

裏面白紙

号
22

公選案

公選案百十三號

逆信部内一紙

今般官吏任用級令施行と同時に關係規定改
 廢セラレタルニ付テハ従前ノ選、公選、通選及告知等
 中ニ場ノ官名、称号ハ所ニ定ムルモノヲ除ク、外夫
 々相違更セラレタルモノト心得ハレ
 昭和三十二年四月一日
 逓信院總裁
 松前重義
 裁
 名

裏面白紙

大日本帝國政府

以下
爲
印

(國定規格B5(210×297))

裏面白紙

第 八 七 號

昭和二十一年三月二十二日

官 房 文 書 課 長 殿

逕 啓 官 房 文 書 課 長 殿

官 吏 任 用 條 例 令 關 定 三 件 之 關 係 法 規 類 收 正 方 一 件

右 八 號 當 之 手 兼 之 候

財 務 文 部 四 一 號 三 月 二 十 日

裏 面 白 紙

遞秘第八六號

回 答

昭和二十一年三月二十八日

總裁官房秘書課長

總裁官房文書課長殿

官吏任用級令制定ニ伴フ關係法規類改正方ノ件

對遞文第四一號 (三二〇)

右閣令及內閣告示ノ分別紙及送付候

追而遞信院告示以下ニ付テハ決定次第送付可致

裏面白紙

裏面白紙

閣令案

✓
閣令第

號

逓信院屬補、逓信局書記補及通信書記補試験規則及昭和十八年逓信省

令第六十二號之ヲ廢止ス

附則

イ

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和 年 月 日

内閣總理大臣

裏面白紙

告示案ノ一

✓
内閣告示第

號

逓信院官制第九條ノ四ノ規定ニ依リ東京都ニ逓信院海底線工事事務
所ヲ置キ海底線ノ布設及保存工事ヲ掌ラシム

昭和 年 月 日

内閣總理大臣

裏面白紙

告示案ノ二

内閣告示第 號

昭和二十年十月十一日内閣告示第三十一號、昭和二十一年二月二日内閣告示第二號
及昭和二十一年二月二日内閣告示第三號中左ノ通改正ス

昭和 年 月 日

内閣總理大臣

「第九條ノ三」ヲ「第九條ノ四」ニ改ム

手記
第九條ノ三
第九條ノ四
ニ改ム

告示案ノ三

内閣告示第 號

昭和十八年十一月十一日 通信院告示第二號中左ノ通改正ス

昭和 年 月 日

内閣總理大臣

「第二十九條第一項」ヲ「第九條ノ四」ニ改ム

昭和十八年十一月十一日



19

裏面白紙

告示案ノ一
逓信院告示第 號

昭和二十年五月 逓信院告示第一號中左ノ通改正ス

昭和 年 月 日
逓信院 總裁

「第七條」ヲ「第四條」ニ改ム

逓信院
逓信院
逓信院

裏面白紙

告示案ノ二

逓信院告示第 號

昭和二十年三月三日 逓信院告示第二百二十三號中左ノ通改正ス

昭和 年 月 日

逓信院 總裁

「第一條ノ二」ヲ「第二條」ニ改ム

逓信院 逓信部 逓信課 逓信課長 逓信課長 逓信課長

告示案 八三

遞信院告示第 號

昭和十八年十一月十一日 遞信院告示第三號中左ノ通改正ス

昭和 年 月 日

遞信院總裁

「第五條」ヲ「第四條」ニ改ム

15
15
15

裏面白紙



遞郵業第七六號

昭和二十一年三月二十六日

遞信省

官房文書課長殿

郵務局長

官吏任用級令制定ニ伴フ關係法規類改正方ノ件
標記ノ件當局關係省令以下改正案別紙ノ通ニ付了知相成度

逓信省郵務局印

裏面白紙

裏面白紙

○郵便規則ノ部

郵便規則第八十條及第五百五十六條ノ二中「通信官署官制第十六條」

ヲ「通信官署官制第十條」ニ改ム

○告示ノ部

昭和二十年九月九日通信院告示第三百三十三號及昭和十六年一月一日通信省告示第

二百九號中「通信官署官制第十六條」ヲ「通信官署官制第十條」ニ

改ム

通信省

遊電庶第一〇四六號

昭和二十一年三月二十二日

電務局長

總裁官房文書課長殿

官吏任用敘級令制定ニ伴フ關係規定改正ノ件

對遞文第四二號

右關係規定改正案別紙(一)及(二)送付ス

裏面白紙

裏面白紙

別紙(一) 省令改正案

左ニ掲グル遞信省令中「通信官署官制第十六條第一項但書」ヲ「通信官署官制第十條第一項但書」ニ改ム

電報規則

氣象通知電報規則

明治三十三年遞信省令第四十九號

電話規則

外國電報規則

國際電話通話規則

此後多化裁の爲に
此項を削除す

裏面白紙

別紙(二) 告示改正案

左ニ掲グル遞信省告示中「逋當官署官制第十六條第一項但書」ヲ「通信官署官制第十條第一項但書」ニ改ム

- ✓ 昭和五年遞信省告示第千九百十九號
- ✓ 昭和十五年遞信省告示第九百七十二號
- ✗ 昭和十六年遞信省告示第七百一十一號
- ✓ 昭和十六年遞信省告示第千四十七號

(註) 東亞電信電話規則八目下廢止方至伺中付之公布ノ旨昭示十六年告示第千七百一十一號

モ同時ニ廢止トナシキニ付テモ念



遞波監第二八四號

昭和二十一年三月十八日

電 波 局 長

總裁官房文書課長殿

官名改正ニ伴フ法令類改正ノ件
首題ノ件當局關係左記ノ通ニ有之

記

一左表上欄ニ掲グル公達中中欄ノ字句ヲ下欄ノ通改ム

無線電信講習所職員規程	奏任教官	遞	信	教	官
(昭和十七年四月公達第二九三號)	訓育官	遞	信	教	官
	官	遞	信	教	官
	官	遞	信	教	官

裏面白紙

本館ニ關スル事務文書
書ノ記載書號及日付記載ノ類

貯保庶第一九七號

昭和二十一年三月二十三日

貯金保函局長

總裁官房文書課長殿

官更任用殺級令制定ニ伴フ關係法規類改正方ノ件

對遞文第四一號 三月二十日

右改正案其之候

昭和二十一年三月二十三日

裏面白紙

大日本帝國政府

文第四一號

昭和二十一年三月二十日

官房文書課長

官房各部局長
内各局長
各通

官吏任用給與令制定ニ付テ關係法規類改正方ノ件

近ク官吏任用給與令制定セラレ見込ニ付テハ之ニ付テ關係法規類ノ改正ヲ要スルヲ以テ省令以下ノ改正案採取メノ上來ル三月二十三日迄
過期ナク官房文書課長提出スル
退テ關係法規類ノ改正ニ付テハ方案ノ送取中ニ不之念

裏面白紙

21 3 219
敕第41

官
序
各
部
課
受
任
件
紅

官
吏
任
用
級
令
制
定
件
關
係
案
類
改
正
件

總
裁
官
序
又
書
課
受



課
之
係
之

官

近ク官吏任用敍級令制定セラルル見込ニ付
テ之ニ伴フ關係法規類ノ改正ヲ要スルヲ以テ
省令以下ノ改正案所取纏ナリ上來ル三月
二十三日迄遅滞ナク当課宛所提出相成爲
意テ關係勅令ノ改正ニ付テハ案ノ通
取運中ニ有之旨令

昭和二十一年三月

内閣所屬遞信官署職員通則
遞信院官制中改正等ノ件

遞

信

院

朕内閣所屬遞信官署職員通則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

年 月 日

内閣總理大臣

勅令第 號

内閣所屬遞信官署職員通則

第一條 別ニ定ムルモノヲ除クノ外内閣所屬遞信官署職員ハ左ノ如シ

遞信事務官

遞信技官

遞信教官

前項ニ規定スル職員ノ各廳ノ定員ハ當該官制ノ定ムル所ニ依ル

第二條 遞信事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

遞信技官ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

遞信教官ハ上官ノ命ヲ承ケ教育ヲ掌ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由

官吏制度ノ改革ニ伴ヒ改正ノ要アルニ依ル

朕遞信院官制中改正等ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

年 月 日

内閣總理大臣

大藏大臣

勅令第 號

第一條 遞信院官制中左ノ通改正ス

第一條中「航空」ヲ「航空保安」ニ改ム

第三條中「行政考査、國有財産及營繕」ヲ「及行政考査」ニ改ム

第七條中「通信施設」ヲ「電氣通信施設」ニ改ム

第九條ノ三ヲ第九條ノ四トス

第九條ノ三 國有財産及營繕ニ關スル事務ヲ掌ラシムル爲遞信院ニ

營繕部ヲ置ク

第十條 遞信院ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁 親任

次長

一人

一級

局長

部長

秘書官

專任一人

二級

遞信事務官

專任八人

一級

專任百四十三人

二級

專任九千八百七十五人

三級

遞信技官

專任五人

一級

專任百九十一人

二級

專任八百四十一人

三級

第十一條ヲ削ル

第十二條中「判任官」ヲ「三級官吏」ニ改メ同條ヲ第十一條トシ第

十三條ヲ第十二條トス

第十三條ノニヲ削ル

第十四條中「局長ハ」ヲ「各局長ニ局長一人ヲ置キ一級ノ遞信事務官

ヲ以テ之ニ充ツ」ニ改メ同條ヲ第十三條トス

第十四條 營繕部ニ部長一人ヲ置キ一級ノ遞信技官ヲ以テ之ニ充ツ

總裁ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第十六條 乃至第二十九條ヲ削ル

第二條 電氣試験所官制中左ノ通改正ス

第二條 電氣試験所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

遮信技官

專任三人

專任七十四人

專任二百六十三人

一級

二級

三級

遮信事務官

專任一人

專任四十二人

二級

三級

所長ハ一級ノ遮信技官ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 第二乃至第六條ヲ削リ第七條ヲ第四條トス

第三條 遮信講習所官制中左ノ通改正ス

第三條 遮信講習所ニ通ジテ左ノ職員ヲ置ク

所長

遮信技官

專任一人

一級

專任五十四人

二級

專任四百二十八人

三級

遞信事務官

專任一人

二級

專任百三十六人

三級

遞信技官

專任十六人

三級

所長ハ二級ノ遞信教官ヲ以テ之ニ充テ但シ高等遞信講習所ノ所長

ハ一級ノ遞信教官ヲ以テ之ニ充ツ

第五條乃至第八條ヲ削ル

第四條 無線電信講習所官制中左ノ通改正ス

第二條ヲ削リ第一條ノ二ヲ第二條トス

第四條乃至第七條ヲ削リ第三條ヲ第四條トス

第三條 無線電信講習所ニ通ジテ左ノ職員ヲ置ク

所長

遞信教官

專任二十一人

二級

專任百四十二人
三級

遞信事務官

專任二人
二級

專任二十人
三級

遞信技官

專任一人
二級

專任五人
三級

所長ハ二級ノ遞信技官ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 遞信局官制中左ノ通改正ス

第四條 遞信局ニ通シテ左ノ職員ヲ置ク

局長

遞信事務官

專任八人
一級

專任百四十八人
二級

專任三千二百九十三人
三級

遞信技官

專任一人
一級

專任二百二十一人
二級

専任二千九百四十三人 三級

局長ハ一級ノ遞信事務官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條中「遞信局長」ヲ「局長」ニ改ム

第七條乃至第十一條ヲ削ル

第六條 通信官署官制中左ノ通改正ス

第四條ヲ削リ第五條ヲ第四條トシ第六條ヲ第五條トス

第七條 通信官署ニ通ジテ左ノ職員ヲ置ク

遞信事務官

専任二百七十七人 二級

専任八萬五千二百九十八人 三級

遞信技官

専任二百十九人 二級

専任一萬五千六百五十九人 三級

特定郵便局長 三級

第八條ヲ第六條トス

第九條ヲ削リ第十條ヲ第八條トス

第十一條乃至第十四條ノニヲ削リ第十五條ヲ第九條トス

第十六條中「通信書記官、通信事務官又ハ通信書記」ヲ「二級又ハ

三級ノ遞信事務官ニ、
「通信技師又ハ通信技手」ヲ
二級又ハ三級ノ遞信技官
ニ改メ同條ヲ第十條トス

第十七條ヲ削ル

第七條 簡易生命保険審査會規程中左ノ通改正ス

第三條第二項中「高等官」ヲ「一級又ハ二級ノ官吏」ニ改ム

第八條 簡易生命保険及郵便年金積立金運用規則中左ノ通改正ス

第七條第二項中「高等官」ヲ「一級又ハ二級ノ官吏」ニ改ム

第九條 大正九年勅令第三百五十八號中左ノ通改正ス

第二項中「判任文官」ヲ「三級官吏」ニ改ム

第十條 大正十二年勅令第三百五十九號中左ノ通改正ス

第一項中「奏任官」ヲ「二級官」ニ改ム

第二項ヲ削ル

第十一條 遞信共済組合令中左ノ通改正ス

第一條中「奏任文官」ヲ「二級官吏」ニ、
「判任文官」ヲ「三級官吏」ニ改ム

第十二條 明治三十七年勅令第九十六號中左ノ通改正ス

別表中「奏任官」ヲ「二級官 吏」ニ、
「判任官」ヲ「三級官 吏」ニ改ム

第十三條 明治四十二年勅令第二百十五號中左ノ通改正ス

第一項中「別表定ムル所ニ依リ」ヲ「六十圓以内ノ」ニ改ム
別表ヲ削ル

第十四條 大正六年勅令第二百十五號ハ之ヲ廢止ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ遞信手又ハ通信手ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレ
ザルトキハ現ニ受クル俸給額（年功加給ヲ含マズ以下同ジ）ニ相當ス
ル號俸ヲ以テ事務ニ従事スル者又ハ技術ニ従事スル者ノ區分ニ應ジ各

遞信事務官又ハ遞信技官ニ任セラレ且三級ニ敘セラレタルモノトス但
シ現ニ受クル俸給額ニ相當スル號俸ナキトキハ從前ノ俸給ヲ受クルモ
ノトス

本令施行ノ際現ニ遞信手又ハ通信手ニシテ休職中ノモノ別ニ辭令ヲ發
セラレザルトキハ休職ノ儘前項ノ例ニ依リ各遞信事務官又ハ遞信技官
ニ任セラレ且三級ニ敘セラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ特定郵便局長ニシテ奏任官ノ待遇ヲ受クルモノハ二
級官ノ待遇ヲ受クルモノトス

官吏制度ノ改革等ニ伴ヒ改正ノ要アルニ依ル

理由

昭和二十一年三月

逓信省官制等中改正ノ件

逓
信
院

朕選信省官制中改正等ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

年 月 日

内閣總理大臣

大藏大臣

勅令第 號

第一條 選信省官制中左ノ通改正ス

第十一條第二項中「勅任技師」ヲ「一級選信技官」ニ改ム

第十三條 選信省ニ左ノ職員ヲ置ク

選信事務官

一級 專任六人

二級 專任百四十三人

三級 專任一萬十六人

選信技官

一級 專任七人

二級 專任百九十一人

三級 專任七百人

第十四條 乃至第二十四條ヲ刪ル

第二條 電氣試驗所官制中左ノ通改正ス

第二條 電氣試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

逓信事務官

二級

專任一人

三級

專任四十二人

逓信技官

一級

專任三人

二級

專任七十四人

三級

專任二百六十三人

所長ハ一級逓信技官ヲ以テ之ニカツ

第三條ノ二乃至第六條ヲ削リ第七條ヲ第四條トス

第三條 逓信講習所官制中左ノ通改正ス

第三條 逓信講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

逓信事務官

二級

專任一人

三級

專任百三十六人

逓信技官

三級

專任十六人

逓信教官

一級 專任一人

二級 專任五十四人

三級 專任四百二十八人

所長ハ二級逓信教官ヲ以テ之ニ齊ツ但シ高等逓信講習所ノ所長ハ一級逓信教官ヲ以テ之ニ齊ツ

第五條乃至第八條ヲ削ル

第四條 無線電信講習所官制中左ノ通改正ス

第二條ヲ削リ第一條ノ二ヲ第二條トス

第四條乃至第七條ヲ削リ第三條ヲ第四條トス

第三條 無線電信講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

逓信事務官

二級 專任二人

三級 專任二十人

逓信技官

二級 專任一人

三級 專任五人

逓信教官

二級 專任二十一人

三級 專任百四十二人

所長ハ二級逓信教官ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 逓信局官制中左ノ通改正ス

第四條 逓信局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

逓信事務官

一級 專任七人

二級 專任百四十八人

三級 專任三千二百九十三人

逓信技官

一級 專任二人

二級 專任二百二十一人

三級 專任二千九百四十三人

局長ハ一級ノ逓信事務官又ハ逓信技官ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 中「逓信局長」ヲ「局長」ニ改ム

第七條 乃至第十一條ヲ刪ス

第六條 逓信官署官制中左ノ通改正ス

第四條 及第七條ヲ削リ第五條ヲ第四條トシ第六條ヲ第五條トシ第

八條ヲ第六條トス

第七條 逓信官署ニ左ノ職員ヲ置ク

逓信事務官

二級 專任二百七十七人

三級 專任八萬五千二百九十八人

逓信技官

二級 專任二百十九人

三級 專任一萬五千六百五十九人

特定郵便局長

第十條ヲ第八條トス

第十一條乃至第十四條ノ二ヲ削リ第十五條ヲ第九條トス

第十六條中「通信書記官、通信事務官又ハ通信書記」ヲ「二級又ハ

三級ノ逓信事務官」ニ改メ「通信技師又ハ通信技手」ヲ「二級又ハ三

級ノ逓信技官」ニ改メ同條ヲ第十條トス

第十七條ヲ削ル

第七條 補身生命保險審査會規程中左ノ通改正ス

第三條第二項中「高等官」ヲ「一級又ハ二級ノ官吏」ニ改ム

第八條 簡易生命保險及郵便年金積立金運用規則中左ノ通改正ス

第七條第二項中「高等官」ヲ「一級又ハ二級ノ官吏」ニ改ム

第九條 大正九年勅令第三百五十八號中左ノ通改正ス

第二項中「判任文官」ヲ「三級官吏」ニ改ム

第十條 大正十二年勅令第三百五十九號中左ノ通改正ス

第一項中「奏任官」ヲ「二級官吏」ニ改メ第二項ヲ削ル

第十一條 逓信共済組合令中左ノ通改正ス

第一條中「奏任文官」ヲ「二級官吏」ニ、「判任文官」ヲ「三級官

吏」ニ、「二千四百二十圖」ヲ「四」ニ改ム

第十二條 明治三十七年勅令第九十六號中左ノ通改正ス

別表中 「奏任官」ヲ「二級官吏」ニ改ム
「判任官」ヲ「三級官吏」ニ改ム

第十三條 明治四十二年勅令第二百十五號中左ノ通改正ス

第一項中「別表定ムル所ニ依リ」ヲ「六十圖以内ノ」ニ改ム

別表ヲ削ル

第十四條 大正六年勅令第二百十五號ニ之ヲ廢止ス

附 則

本令ハ昭和二十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ遞信手ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ
官吏任用級級令第四條ノ規定ニ拘ラズ事務ヲ掌ル者又ハ特別ノ學術技
藝ニ關スルコトヲ掌ル者ノ區分ニ應ジ三級ノ遞信事務官又ハ遞信技官
ニ任セラレ及級セラレタルモノトス

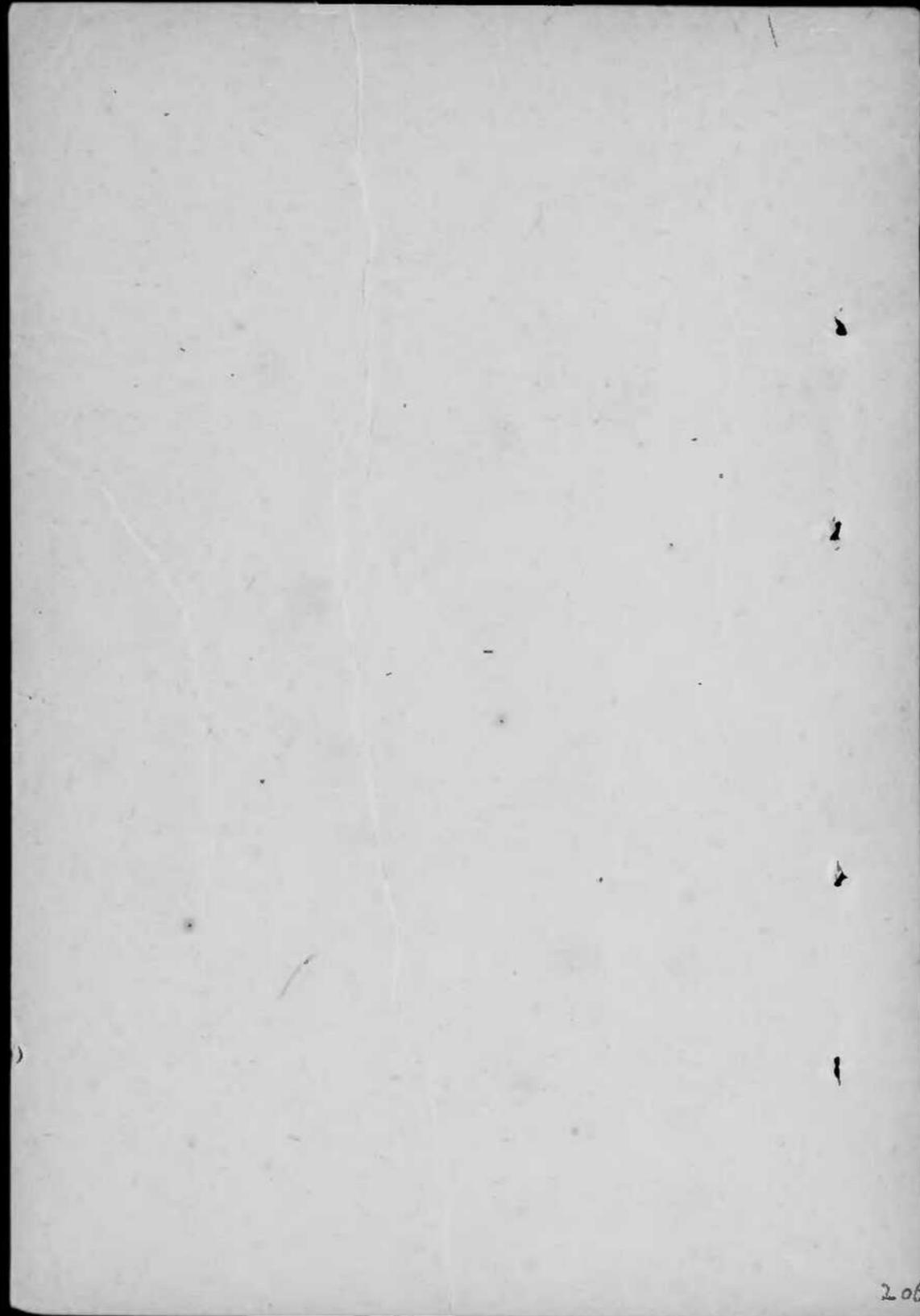
本令施行ノ際現ニ逋信手ノ職ニ在ル者別ニ辭令ヲ發セラレザルトキハ
官吏任用級級令第四條ノ規定ニ拘ラス三級ノ遞信事務官ニ任セラレ及
級セラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ遞信手又ハ逋信手ニシテ休職中ノモノ別ニ辭令ヲ發
セラレザルトキハ休職ノ儘前二項ノ例ニ依リ遞信事務官又ハ遞信技官
ニ任セラレ及級セラレタルモノトス

本令施行ノ際現ニ特定郵便局長ニシテ奏任官ノ待遇ヲ受クル者別ニ辭令ヲ
發セラレザルトキハ二級官吏ノ待遇ヲ受タルモノトス

理由

官吏制度ノ改正ニ伴ヒ改正ノ要アルニ依ル



206

